茶家醉古襍

名物錦繡圖説
并價附目利弁
和草之圖説
唐草之圖説
印籠工名譜
并名物印籠畧
根附工名譜
并根附之畧
緒〆玉品考
古筆切短冊價録
茶人花押續
時代蒔繪辨
并棗之畧

四

浪速老翁輯録

茶家酔古襍

第四輯

[illegible]文會堂梓

茶家酔古四襍

錦繍總論

劉熙釋名曰錦ハ金なり是を作すに功なるを用ゆ其價を重すこと金の如し故に字を制するに帛と金とを又藤貞幹の說に金襴は地を金にて織り紋を絹にて織なり金段ハ紋を金にて織り地ハ段子なり蜀江錦ハ錦に金を交へて織るものとす世説近く蹇驢嘶餘に出されしも今世と別に称する人なし又古昔祇綿呉錦

毛錦等の名あり秘錦ハ地色
なく一面に紋を織出ス綾ハ綾地
なりと告書に出たり東京錦ハ
是まて其體定かならさりしを
今ハある人考あり又按に延喜式
に唐錦あり東京を書ハ假
名なくして東京錦にコヽニシキの
訓ありて義詳ならす薔薇錦
霞錦のことハ今存するもの稀也
とありし又三國の時蜀の国そ
専ら錦を作れり鄴中記ニ
錦の品數を出せるハよき品の
名目ありて彼土も稀なりと

丙午春

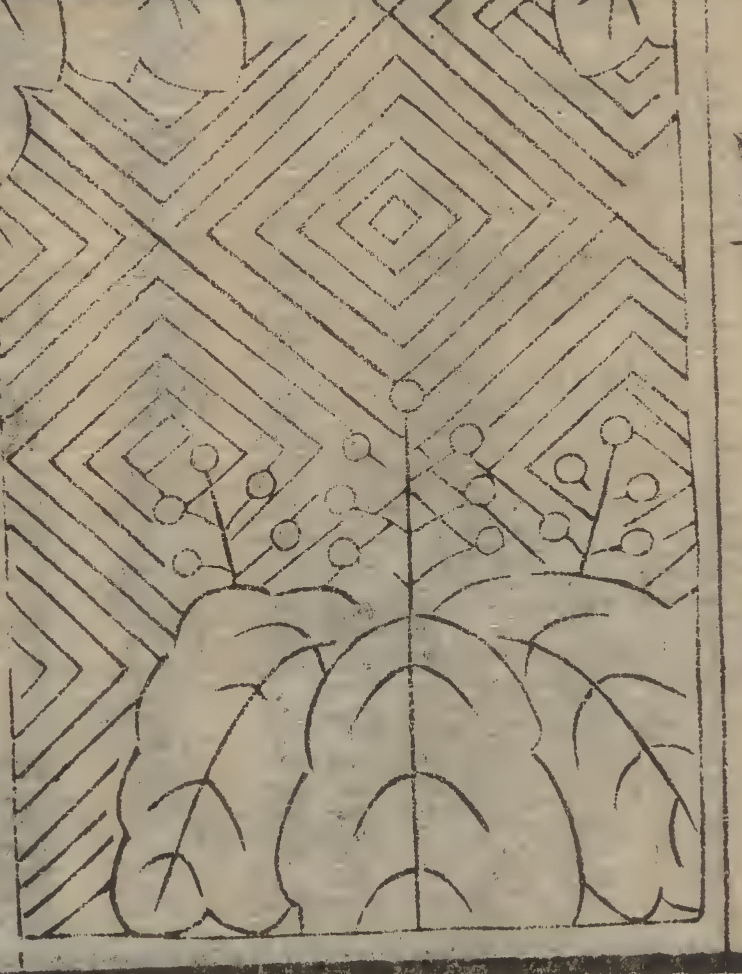
名物錦繍圖説補遺

○金襴



大和錦 前書に此名出たり地も
おり神具などにつかふと云
此やうのものハ赤なとの錦にて
其外ハすぐれたるもの少けれと日本
古きものおりおなしとて住吉の
外大社の神宝の内などにあるを
つく神代よりありしといへと
日本織と云ふへき也

嵯峨切金襴 古集に出たるもの此ハ
どんすとのいまさに似たる
之のなかに再ひあらはれいづるものゝ
品佗りやうのものゝ細かき模様に
あるき地紋あり但角菱なとの
ように錦繍のものにいひ加へる
様なるものいひしか常に從ふなる
風情なる種のものなるへし





雉頭金襴　地ハこうぞめ
もやうてしいゑこあり
こやう紫宸殿ハ作らせたまふ一寸三
枇杷大徳寺ゟ前集ニあり
いろいろありくちなるをとりて
うつしひきハ出す

大燈金襴　すそうきぬ地ハ
こやうハ紅梨
ふとき下つなあり五の目にするり
大徳寺地大燈国師袈裟の
裂なり前集とも又すこし巻
見るなり

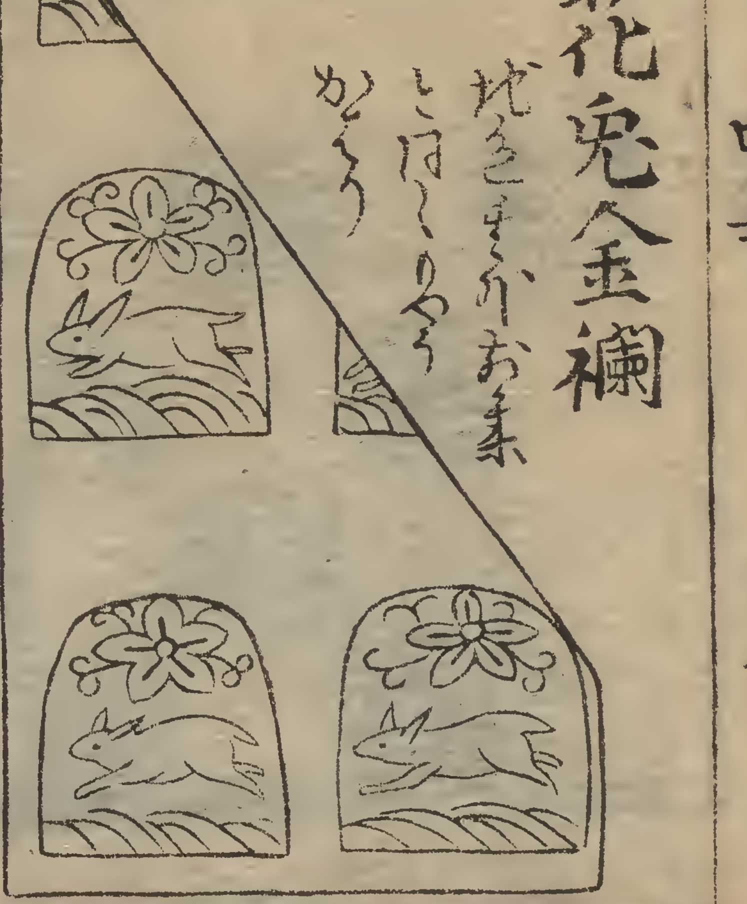


釣石畳金襴　もえぎさや地
もやう石だゝみにて
かげらかへしも宝づくし一つゞつ
にて地ゝくに出す地深地いろ



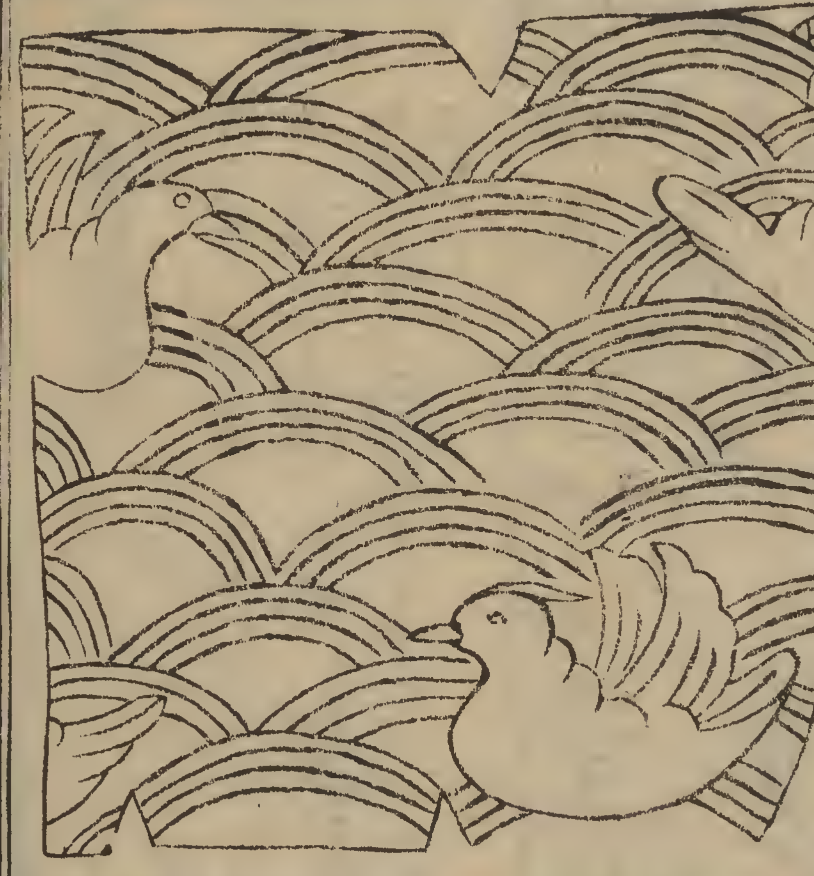
花兎金襴

地色まかりおほく
とはくりやう
かくろう



鴛鴦金襴

紺地もやうおし
とりの大さ巾一寸
なとよく仰さ五の目にはなり段
のるあまり をのせず紺地なり
洛陽本圀寺日蓮上人曼荼
羅の表具要なりと見ゆる

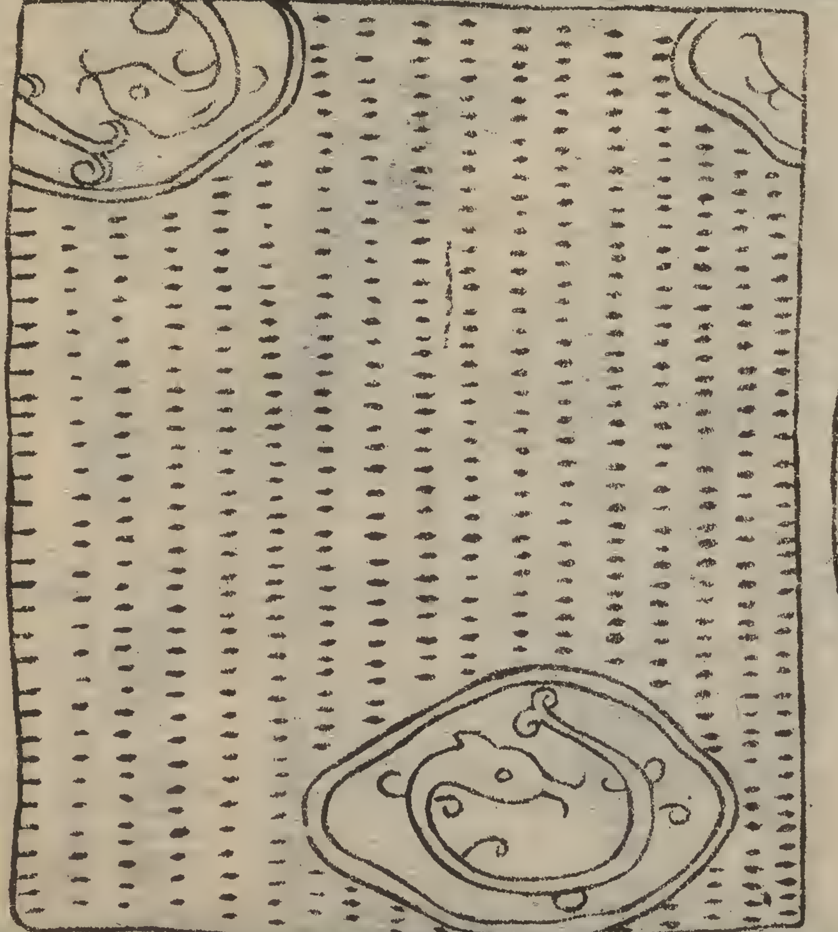


浄智金襴

白地にやう兎
の作土ろろすこし
きくはするる地組渾地のごとく
そえふ麦もるあり信長
時代とわかる

同上

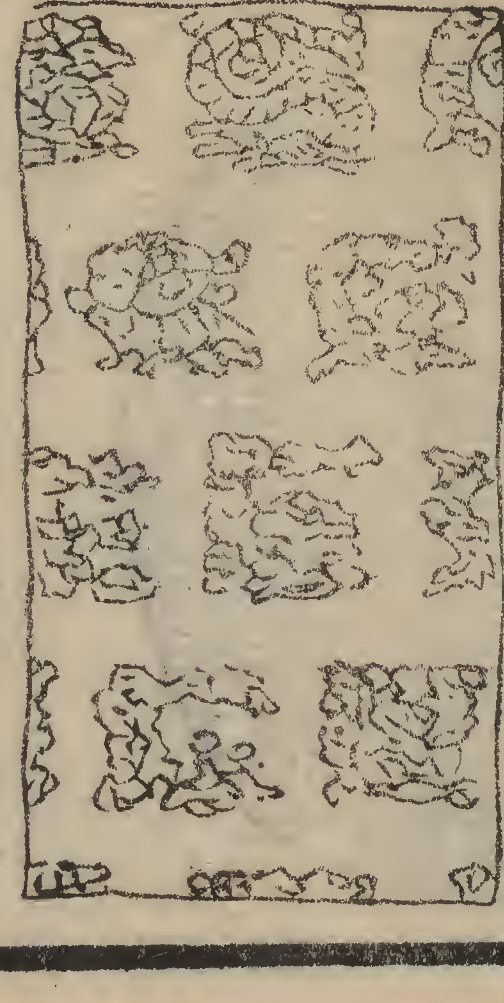




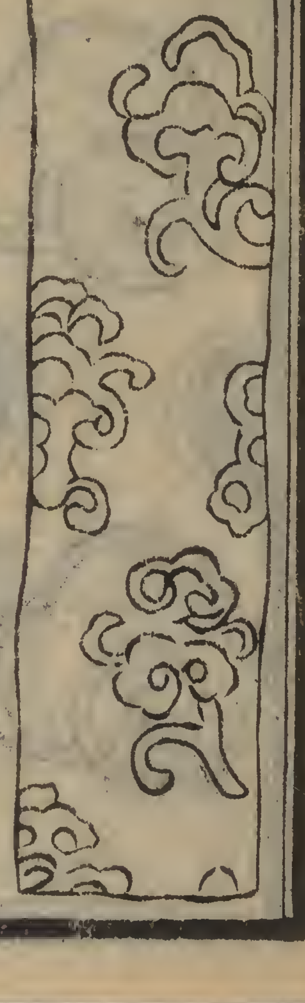
緞大鞁金襴 紺地にて太鼓輪ちらし有
銀光あり稀花なり



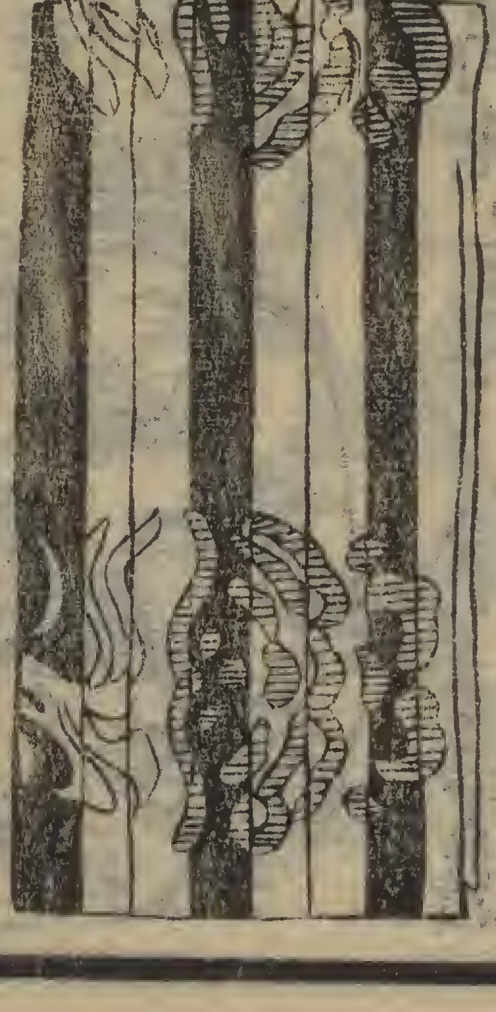
角龍切金襴 地色紺くあり
りやう斜と花
との取合せ作る又ある押織も
あり模様は糸糸紋あり
おくある紋の角紋は白地し



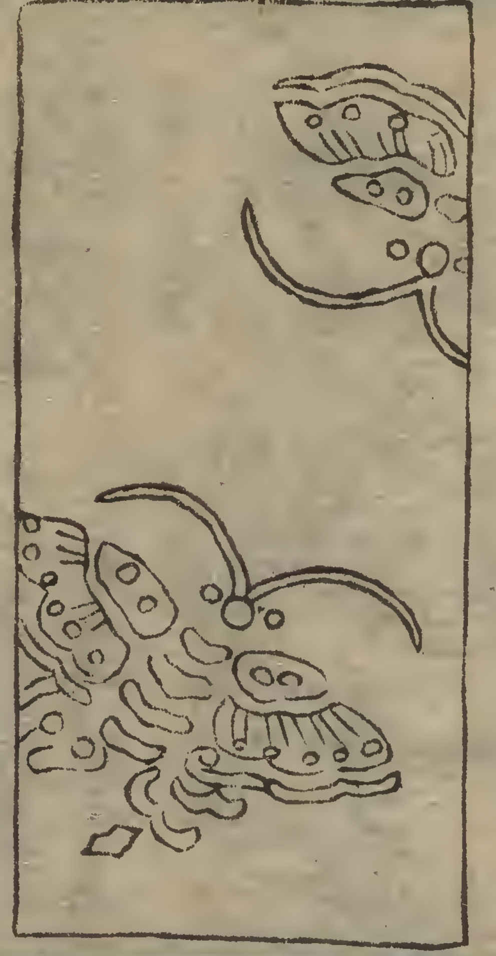
和久田 柿白地地合唐し
紋菱雲紙子の織図の
どこへてもあるの
ものなし あるべし



金春切 表まては勇合紋五枚合
割切より鳩あるし



伊藤切 表ま茶地金紋唐花形
宝手ぢ大小あり又金玉
あく紺とめるころのもやうあり



富田金襴 是説とも萬葉文字
名乃手にも伝わる大
阪の後陣の下にあるの紹代富田
ことくありとも又時代は不詳
おすなとゝいう

○純子

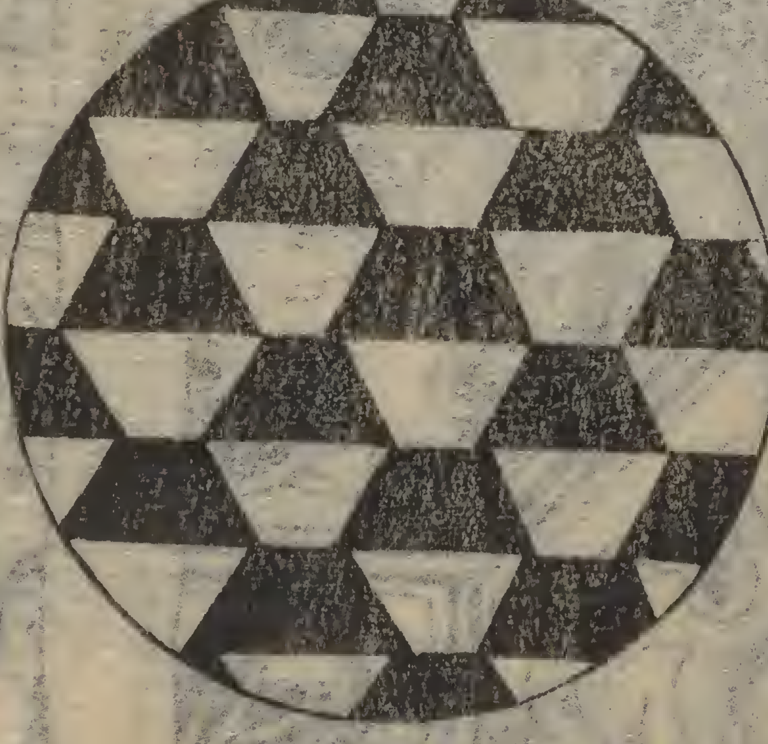


珠光純子 ハ花色地りやうちん茶又ハ紺地色ハ茶色のぬきりやう縫つやちろとも紋大きし松屋源三郎といふものゝ名物茶入の袋に有るにからあり時代本仕きとおもふし



渦（ウズ）純子 玉子色純子やうに萌黄りつぎの浮紋なり

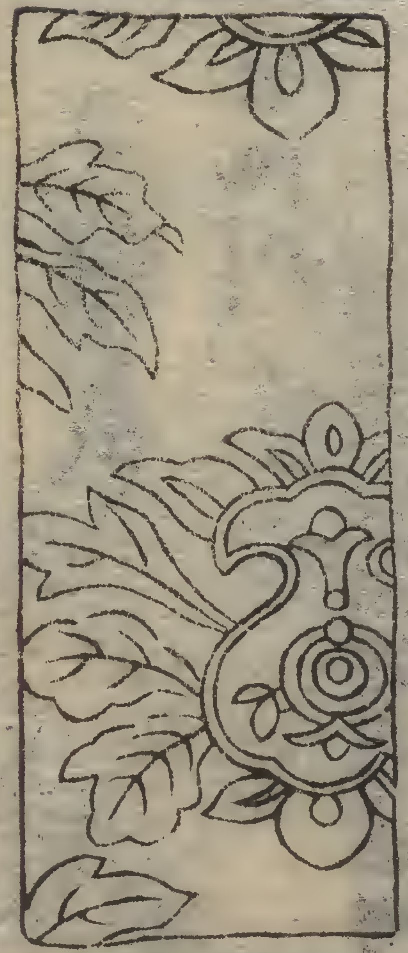
袴腰純子 かん茶地りやう縫のうらさ五の目おあり组し紋うすりえぎ



鉄先純子 花色さぬ地茶色の下しりやう三方よりそう路色せ紋の色ハ茶からろき



織田純子



○雑裁

有栖川



蜀紅



羅地印金



テンス印金



ウンケン



〇錦繍價録

茶入袋の寸法大サ四寸五分四方の切二ツ底への切二寸四方の切一ツ其の寸法之金五百疋より六三十五両迄以下ニ記ス大体位付

〇金襴

- 雞頭金襴　金廿枚位
- 長楽寺〻　金三百貫〻
- 劔先〻　金三百貫〻
- 花兎〻　金三百貫〻
- 冨田〻　金十枚〻
- 撝屋切　金十枚〻
- 木下〻　金百貫〻
- 大徳寺〻　金三両
- 鸑鷟〻　金三百貫〻
- ちや浅切　金二枚〻
- 大燈金襴　金三百貫位
- 逢坂〻　金二百貫〻
- 嵯峨切　金三百貫〻
- 花麒麟　金三百貫〻
- 住蔵切　金十枚〻
- 銀閣寺　金百貫〻
- みしさ　金十枚〻
- 釣石畳　金百貫
- 針屋切　金百貫
- 大友菱　金三枚〻
- 大内桐　金十両
- 高臺寺切　金二枚
- 劔太鼓　金百貫
- 建仁寺切　金三枚
- 義隆切　金二両
- 安楽菴　金五両より三十両
- 糸屋切　金五両
- 大内菱　金百貫
- 芥川　金十両
- 角龍　金百貫
- 浄智　金一枚
- 雲鶴　金十両
- 荒磯大純　金三両
- 古金襴　金三両より十両

〇銀襴

- 興福寺銀襴　金十枚
- 藤種　金一枚
- いちご　金三両
- 大純　金一両
- なゝこしま　金百貫
- 金剛切　金二枚

〇鈍子

- 本能寺　金十枚
- 白極　金十枚
- 下妻　金十枚
- 宗句　金十枚

金十枚 劔先
金十枚 正法寺
金二枚 笹蔓
金二枚 京極
金三両 七羊
金三両 紹鴎
金三両 そうくど
金一枚 遠州雲獅子
金三両 御朱印
金十枚 珠光
金一枚 袴腰
金二両 藤本藤音
宗薫切 位上

金百貫 有楽
金十枚 藤谷
金二枚 うず
金一枚 鎌倉
金五両 道玄
金二枚 遠州
金五両 清水
金百貫 狩場切
金二両 立田羽
金一枚 住吉
金三両 三雲屋
常真切 位上

○漢渡

金十枚 鎌倉
金五十両 望月
金百貫 中尾
金三枚 あつミ
金三両 舟越
金二枚 ふらい
金二枚 小松
金十両 日野
有楽 位中

金十枚 弥左衛門
金百貫 青木
金三枚 吉野
金二両 姫路
金二枚 伊藤
金二枚 紹鴎
金一両 ところ
朝倉 位上

印金 此色のうつりさまさまの金襴のよしなり牡丹から艸作土なし地組の砂のごとく金の筋混とどうそのやうなる所あり押分あり皆いつれもまはし模様を化なり

紋紗印金 純子地印金

さや地印金　綾子印金

木綿地印金　ちりめん印金

高麗印金

日本印金　京ニ良印金ハあや地そのうへなり [illegible]

[illegible]

金紗　[illegible]

[illegible]

織部紗　[illegible]

[illegible]

銭屋切紗　織部紗ニ似て [illegible] 織なり

[illegible]

京雁金屋切紗　京織なり

焼切紗　[illegible]

銀紗　上代ハ [illegible]

海黄　[illegible]

[illegible]

○金襴之名やう

金紗　[illegible]

紗金　[illegible]

銀紗　[illegible]

印金　[illegible]

金地　[illegible]

寄金　[illegible]

路次金襴　[illegible]

高麗綿 絹絲なり

綿みつき 京都にて〳〵縫出るなり

金莫臥爾 モウルと云国の名紋を浮織にしたるものなり

絹モウルも右に同じ ○莫臥爾織といふハモウルにちゞみて織たるもののなり 此外かハハルレヤモウル糸モウルなどの品あり

廣東縞 うすきものなり 廣東織ハ廣唐ちゞみ

つむぎ織ともいふ ことのなり

襴结 かうさのうき紋ありまた別種に郡结といふあり

島羽结 木綿のはやり 黄糸のあり紋

たびら 紋あり 地あつきやうすきもとて

段金 純子に金入たるものなり

唐織 うす織のことなり

紬絲津 地紋にきまりたるものなり

紡綵 すじのものなどて 仙のやうなる紋あり

帊 北のうらなるあつて厚くあらず

魯 絞縲に似てあらきもうすきものなり

絞魯 すじの地紋あり

屋形北絹 北絹のうすきからなるあり 又絹北结ハ北絹也

カビタン 金入のものなり

權衡段子 唐からの大紋のある

海黄 地ざんぐりとしてあつし

時代綿 綴縷綿

道綿 綸金 蛮南 朱継紗

錦織 七糸 紬地金縲

繻子地金縲 チャンパ嶋

絨 聖多嶋 東雲嶋あり

錦繍之部終

○革究圖説

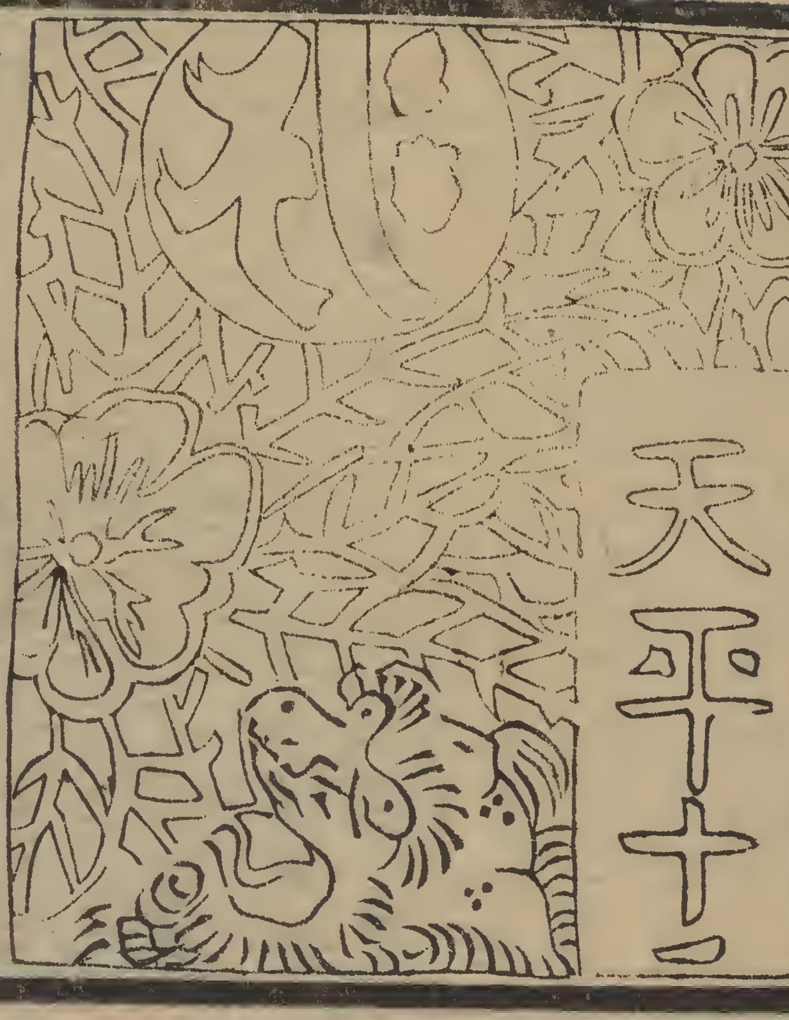
周禮の天官に掌皮ハ掌秋斂皮冬斂革春獻之注に有毛為皮去毛為革と説に加波とハ甲の音の轉じたるにて革ハ甲冑の甲也とおもへバ楯なとにもおもしろし革究圖考にも倭名類聚抄に革ハ獣の皮にて毛をさりたるを和名都久利加波とミえたるハ諸の獣の皮をとりて皆を去て堅からしむる物にて理皮といふなり今俗に暇皮といふ物これなり皮を倭名に加波といふハ

几生たるまゝの時を云と被をばなり和名に皮ハ被むといふも云いはじ又獣の皮を剥て理むる革ハ更るといふ義なり皮と革と韋とをわかち称えて毛ある皮ハ皮の字を用ひて加波といひ毛をさり理と都久利加波といひて革の字を用ひ智し熟して柔かなるを毛見加波といひて韋の字を用ひ以上三ツの名と給て加波と称すといへるなり日本革究の始ハ審に彼岸に欺ハるあるよが纔すたび路識のといへりしるしてす

天平章　正平章

菊池侍く傳記附録ニ曰天平
五年の頃肥後國八代古閑橋の
邊りよりある土人の掘出し天平章十八
中ニ天平十二年八月とありて不動
の像および八幡の二字并梵字業
あり將帥の緣ありて由貴
とつてとらへるに征西將軍懐
良親王八代高田にましまししみぎり
時にて南朝の正平年中に別
板をおうしふさまことの御許
とりうりて正平御免章と
綸旨此將へ正平六年十二月
朔日とあり法名正平除の権
記なり安斎先生軍器考の
説には正平御免章は今の
正平章なりとし而ニ御免章
とらふ而あり赤黒ならは白く
文と出せる傳章なり紫さ
白文あるは綿章とて室町
將軍の御物に用ひし也又紫
人のかもちゐるは紫に赤
黒のには白文ありは御免とて
往も用ゐるなりそれは紫らぬ
ころとよぶも正しき錦華は此
ごろはなし御免なりとみえたり

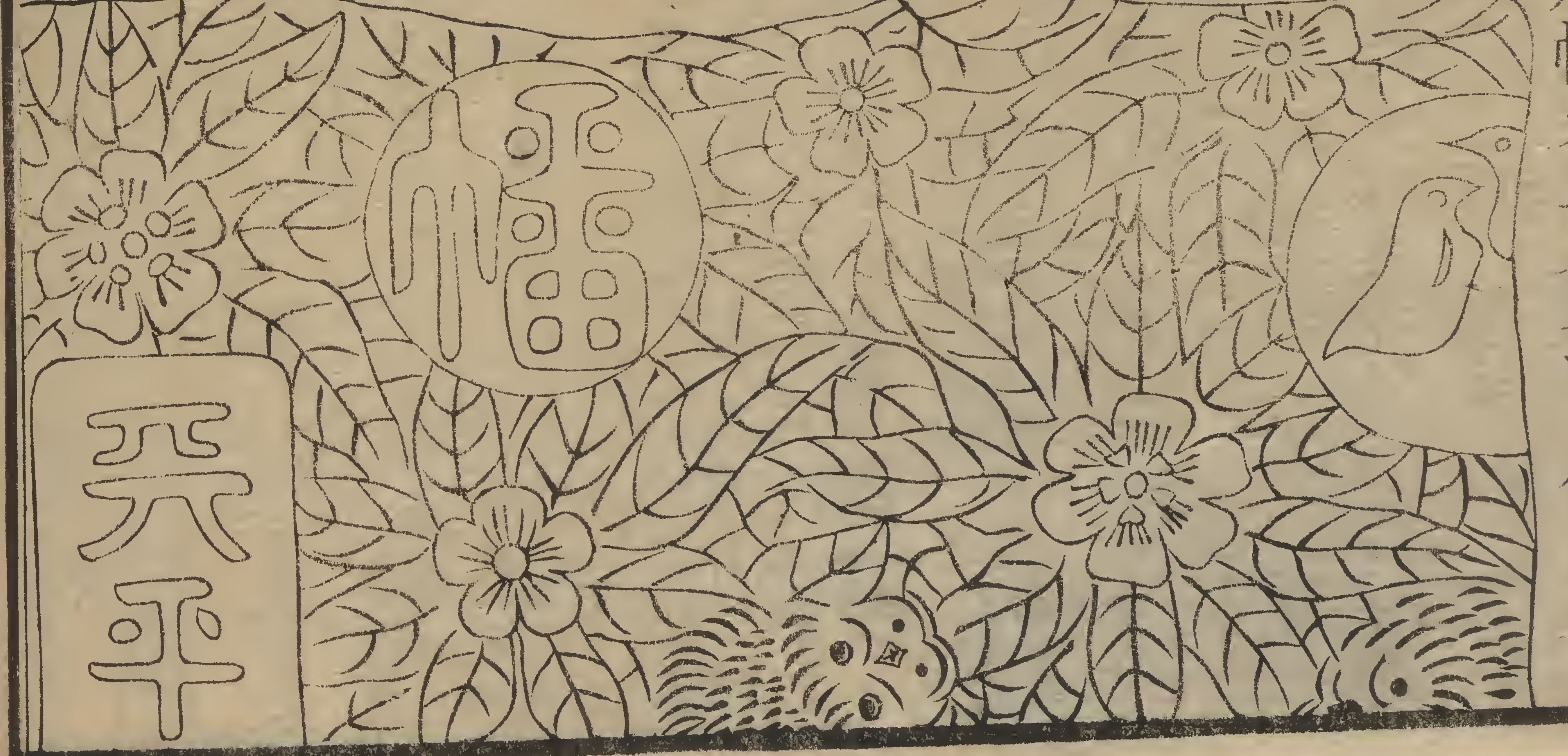
梵字入獅子文章　天平十二年八月



獅子唐花文章　正平六年六月一日



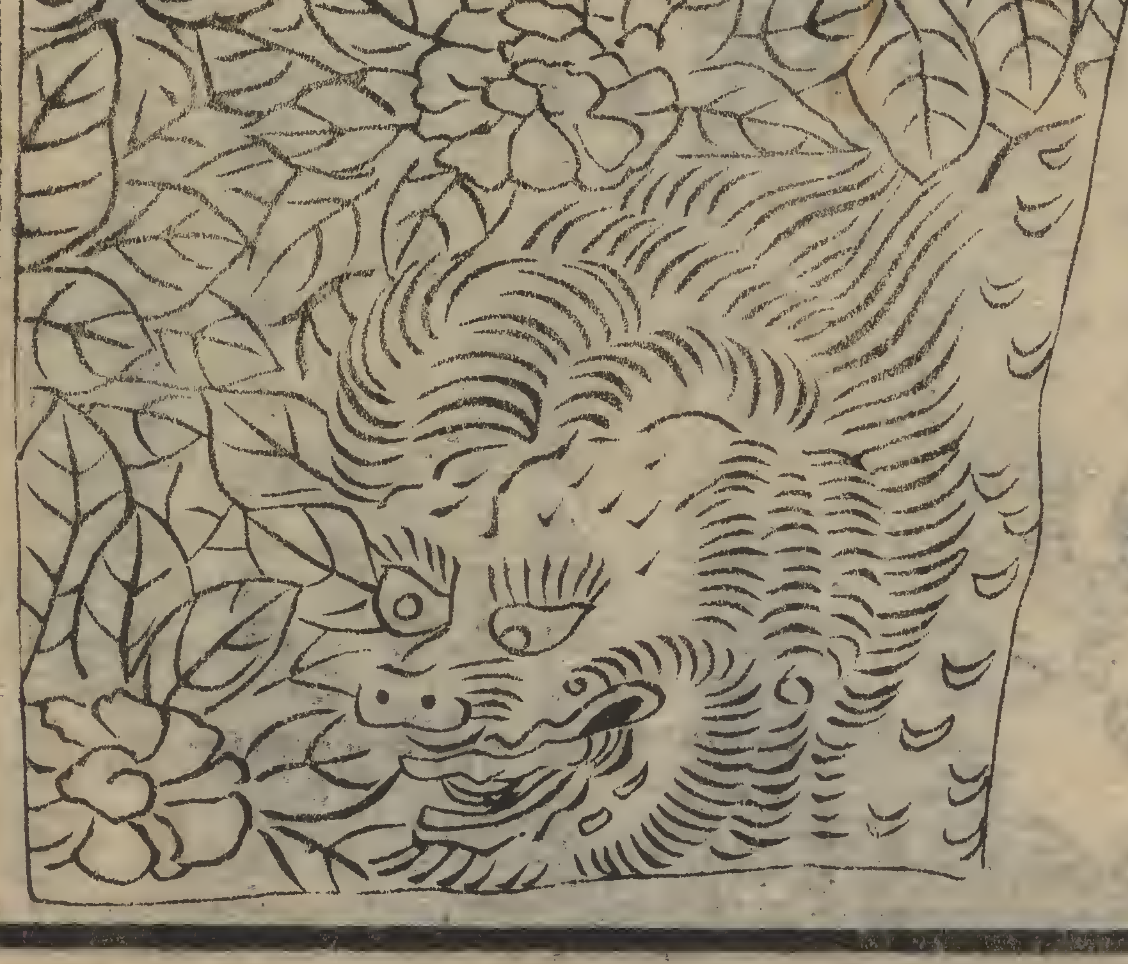
八幡文字入文章 天平十二年八月



獅子牡丹文章

圖考云鐙草子志左艸子か
どふ獅子ふやらんの銀楯とえ
えしいこの章なるべし今でもたき
護の尊ふ存ずるとんろふこの
章を用ひしとの多しも色の
付なると柄杯なると文のちさ
あるとあしさなるとまをき世の
製とこそふ多くさて掌くさっ
すづさらあらず

義経弦走（ツルバシリ）



獅子丸文章

呂考云布衣記ニ力革獅子丸
とそつむとりて高忠に賜ふ鞍の
鞦柄獅子の丸革あり又まぜき
かくてらへ於夫より先南都
春日社に納むる澄この章を
見しこと



獅子面章

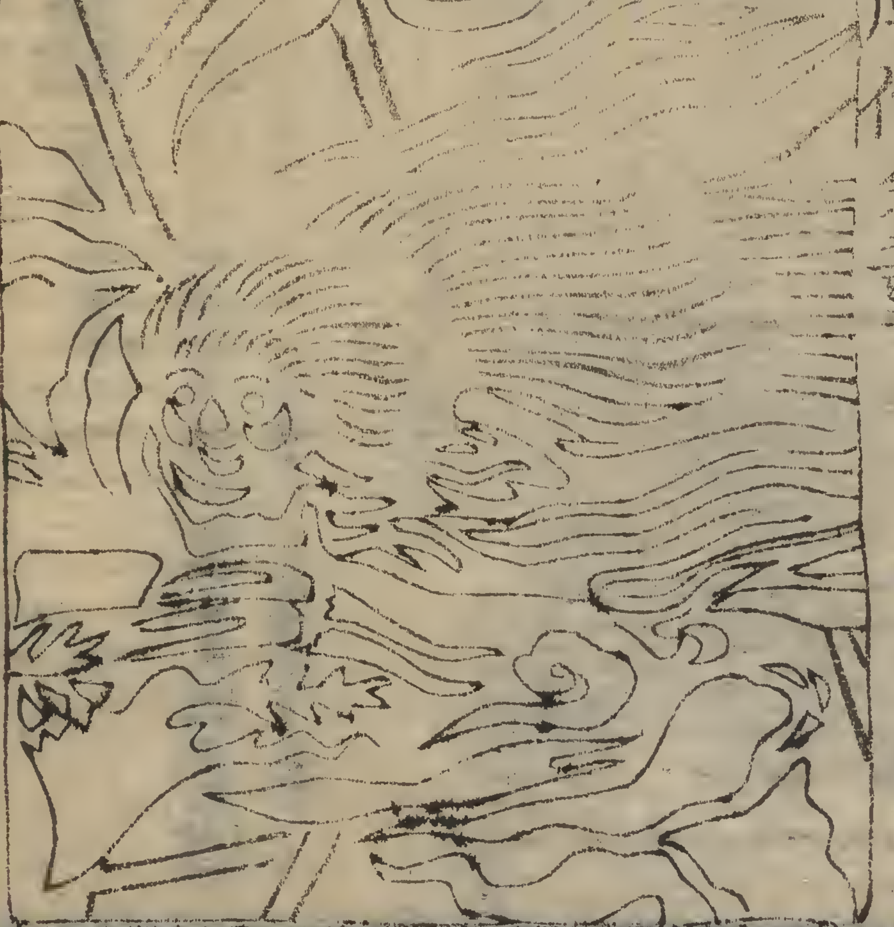
呂考云布衣記ニ切付れ鞦の
皮上補ひし皮ある獅子の面章
とあるは面とは獅子の面にして其の
数をとるは一なるを異掛矢ハ注記
ニ徐葦とハ紋とみてよぶがいふく
深さらそらぬ面世られとおもてかへるの事



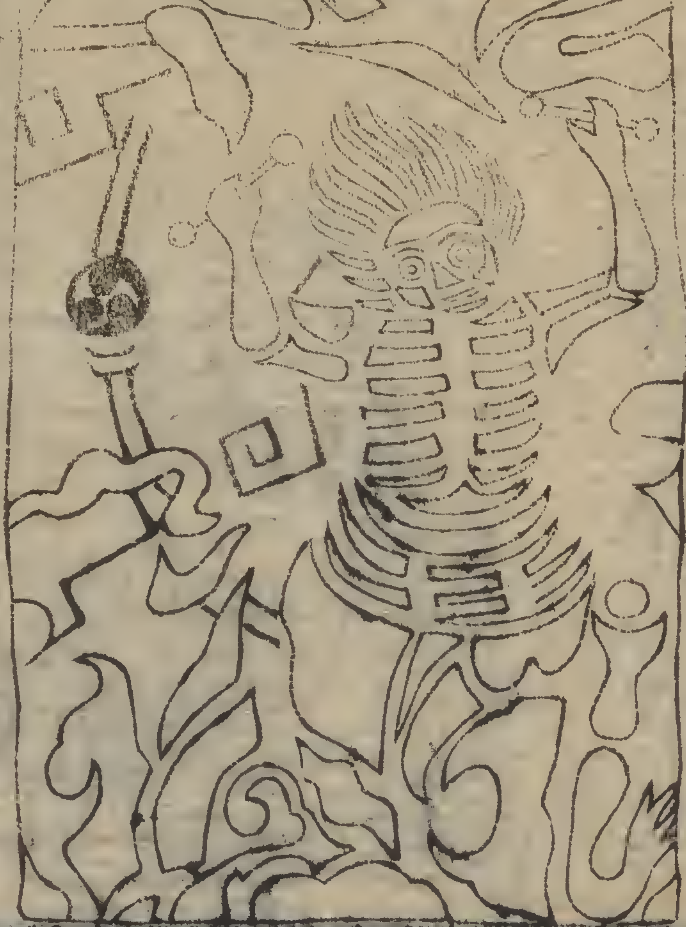
獅子丸髮文章

重盛公甲冑





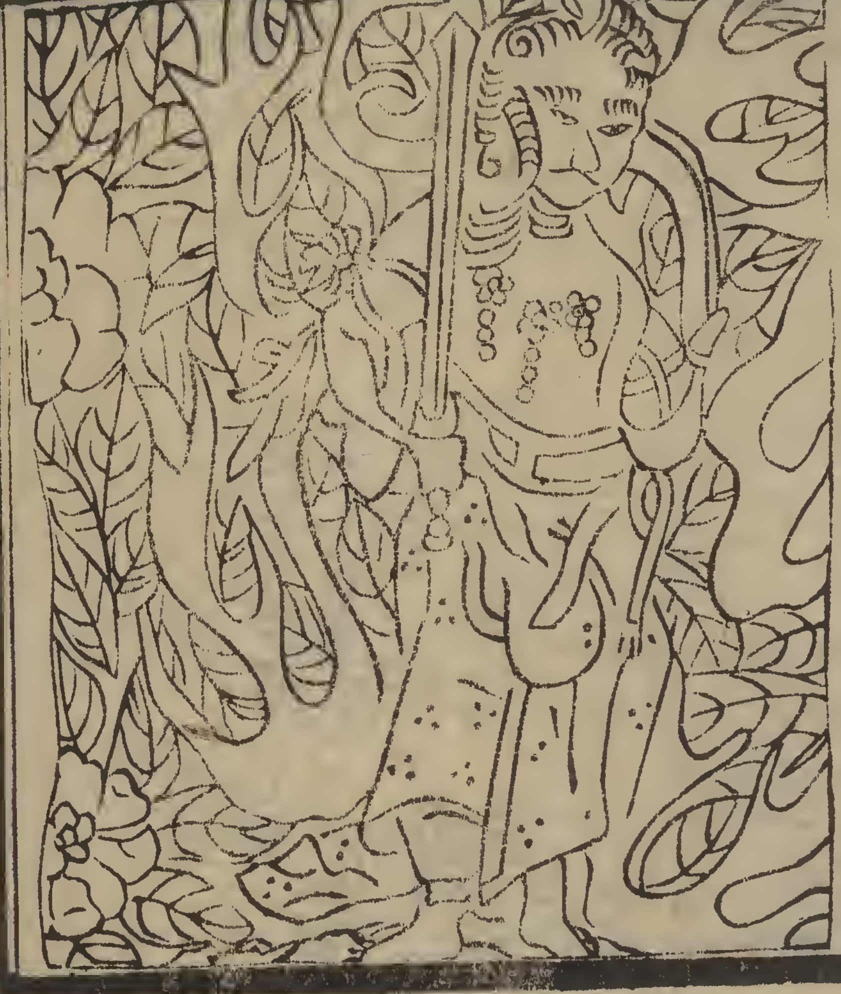
風伯文章



雷公文章

此ハ武州赤坂（?）南部より日枝神社にありしを
源家太上（?）入道の納めし曽の吹
返しを是この此章と申ず伝へ
ともあらず

頼朝卿の甲冑



不動尊像文章

此ハ安芸の厳島の社の秘蔵
源義家公の召されし着長とかや申すの
つゐまへての其ゝにハ不動の尊像あり
鏡板とかゝせて不動明王を彫りけり
かつかうの細かなる物にて此章を記したる
よう隠然として天平十二年八月と
ありて此章の柳子にわらんの字章と
とかくのとおり二筋かかりて不動出ざれど
此章を天平章と称ずるなり不
動尊二童子の像と旅の名をもて
とれ平家秘蔵の兼久作なり
これ此章をもてつの事一の
ものなりや

義家朝臣吹返之章



龍文韋

愚考ニ云 厳島社ニ蔵る大内義隆の
甲冑にあり此韋を書日社ニ存る
縮写りしものなり

大内義隆の甲冑

錦韋

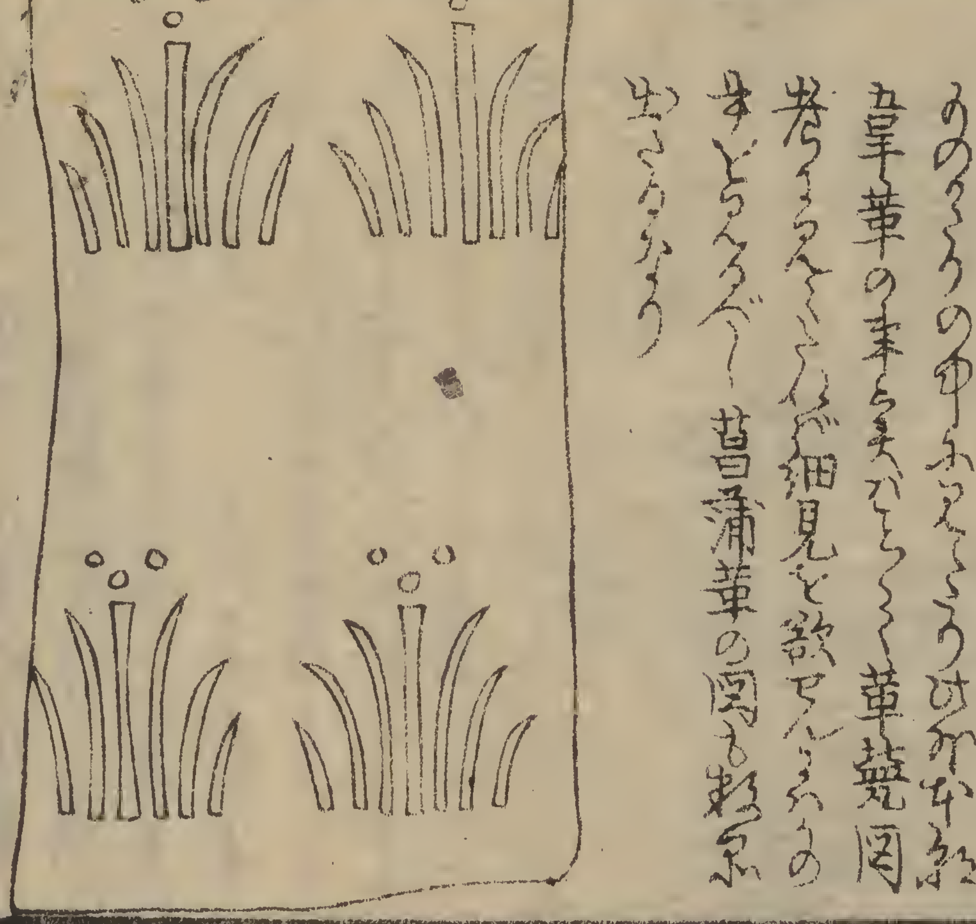
愚考ニ云 錦称くハ織物ニ似たる染韋
となる也 貞徳御鞠記ニ染韋の襪と
ニあり 又法秘書ニ染韋といふ面韋の
様子のなきハうちかけとしミ 此装束
ハ武家の装束 染韋を用ゆると
見へたる文字ニ面しなれバ定めてあ
きらかなる事を譲りて後のあるへくの
奉行ゆる韋とらてハ是をさすなと
見へしなり 是も思ひ出たり

御免錦韋

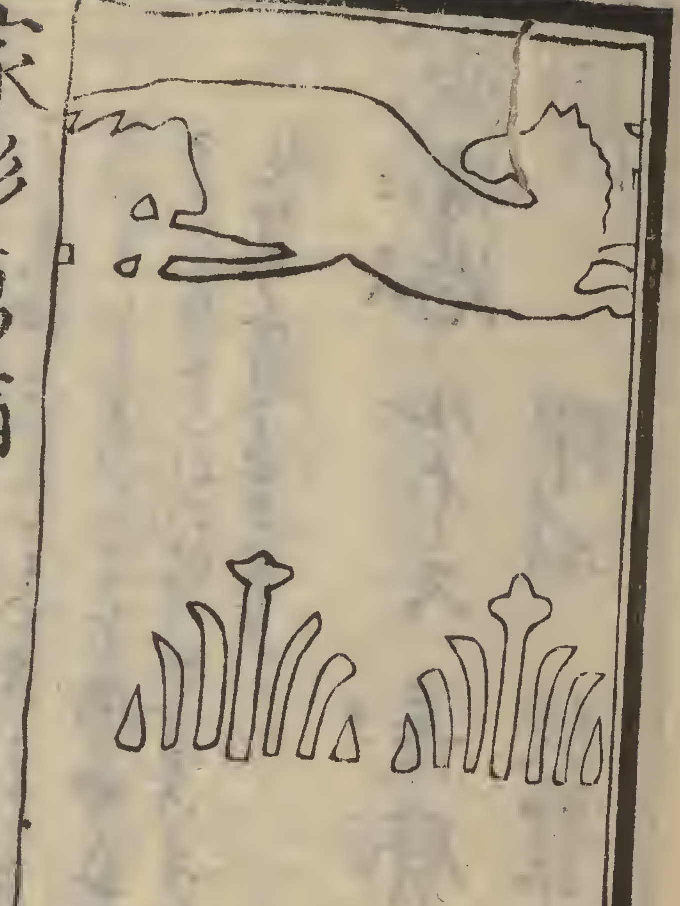


菖蒲華

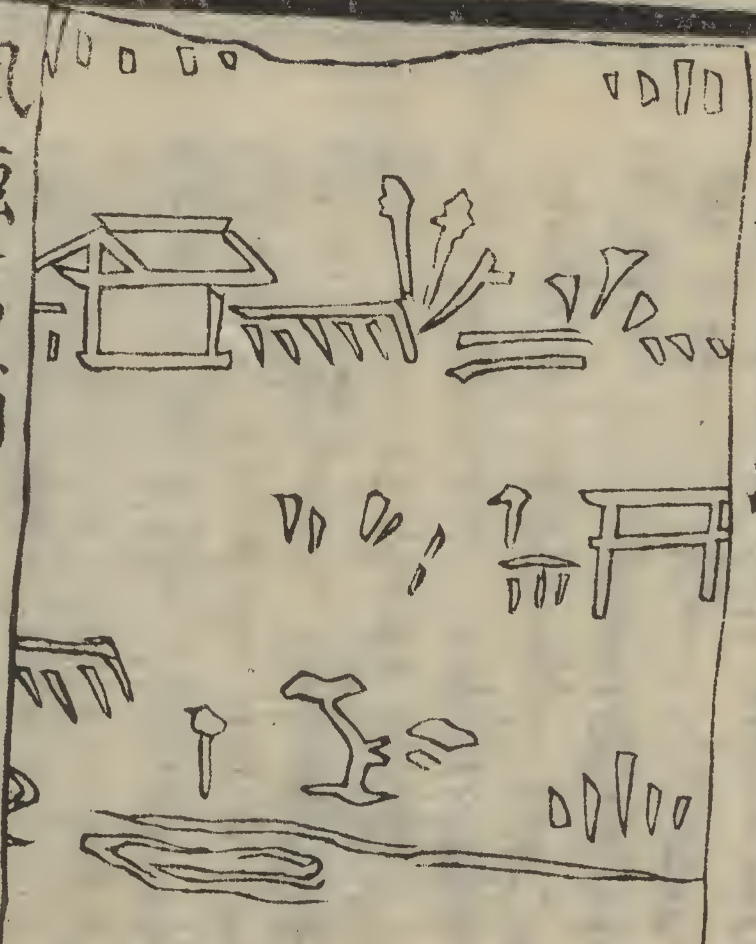
成務八ゟ山の棒下大谷
うそ深うなう神功皇后
三韓を征しゟふてき浸の國を準く
て章をとらく深うらなと高麗勝
武と名付しなり後源義家朝臣
安征のとき岩清水に於て彩勝
武を大谷の宝年るまと豊太閤朝
鮮征伐のときも岩清水に於て戦利
をれる別当彩勝武を献ずと云へ
又菖蒲とつふ仲夏の節にあるゆ
ゆゑ菖蒲と云勝武と通ずるなり
とりて勝利を祝ふかざりなり
又太刀の名菖蒲つくりといふ古き
ものなりの中にそうけかかなれ
草華の事も見かろく華競図
考ちえべく細見を欲せんものの
ものらんべし 菖蒲華の図を粗示
出さるなり



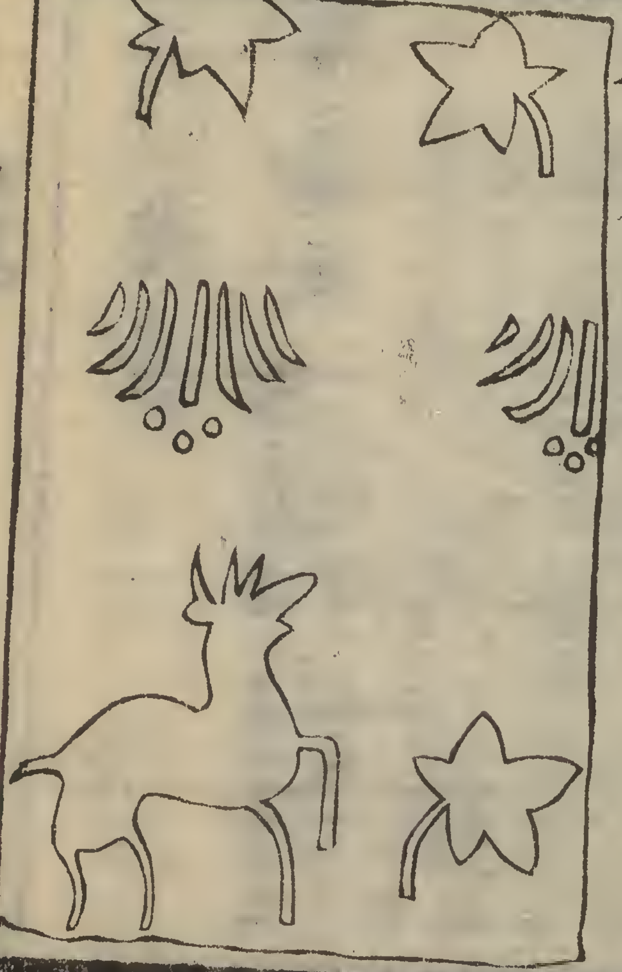
野馬形菖蒲



家形菖蒲



楓鹿菖蒲



○唐華

應帝亜（インデヤ） 南天竺国の名なりとも云ふ 一に印度とも書すなり
すべて華の名にいふ所ぎりてその
産する所の国名を呼ぶ事なりされどその
名を称する例 船来のものにはそれ〴〵
多し但し紅毛の説によれば
其の国の名の後にする
て様ばかりにある物をいふときとの事にし
價まく亜媽港と称するもの
最上とす 全く皮にて二三尺二三尺
絲あり接する所にインデの屋敷あり
おのづから下唐華の統はれたる人の
説を相聞いて書するは統の情なり
まで堅蔵の便利に述ぶる所なれば
大略を述べるまでなりけしき
事を志さんと欲する人ハ吾が本
書を求めて志るべし志らざる人
とても大体清書と参考にして見る
らざることハ元こととを補益く繁
きを省きたれバ堅定の事のまぎ
とするに足るべきなり

亜媽港（アマカハ） ルイス 長臂（テナガ）

鼠（ネズミ） 野牛（ヤギウ） 紋野牛

七宝（シツポウ） 小印度（コインデ） 交趾（カウチ）

莫臥爾（モウル） 小莫臥尓 呂宋（ルスン）

水牛 黒水牛 小華水牛

銀水牛 ウスコウベヤ 小豆華（アヅキ）

青皮 臭青皮 聖多黙（サントメ）

大紋聖多黙 小紋聖多黙

黄い 白い 真黒（シロ）い

湯入い 紋い 百爾齊亜（ハルシヤ）

白百爾齊亜 小華

紅華 榜葛剌華（ベンガラ）

遜華（スカシ） 印花華（サラサ）

象皮 白滑 白滑樟皮（コビト）

山馬 暹羅（シヤム） 鶉華（ウヅラ）

梨地金華 金帛 虎皮

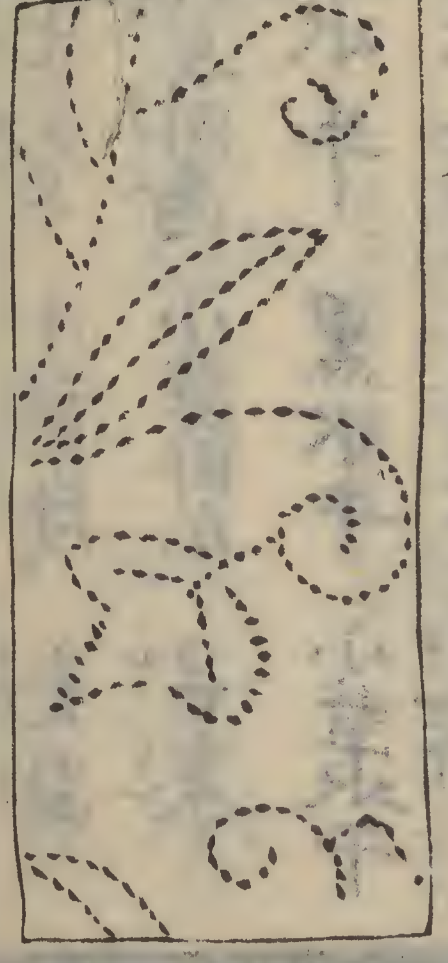
紋印度亜（モンインデヤ）

紋様一つならずあまたあり 上品のものを染出す紋
ならてすはしらそとのくとらんとこう
本邦にて偽造するもあまた紋は
ひさく地あらし偽造は紋あらく
地甲しろものは価やすし



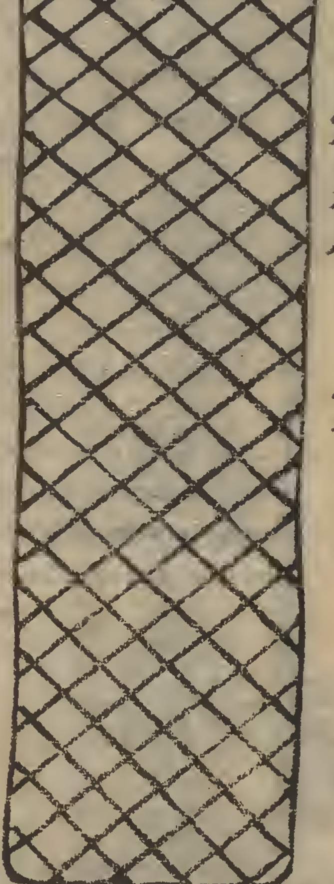
刺紋印度亜（ヌヒモンインデヤ）

獣毛を織たるより
てみるに緻密なれども
ありて蔓草の紋を繍たるものなり
[illegible]価高し



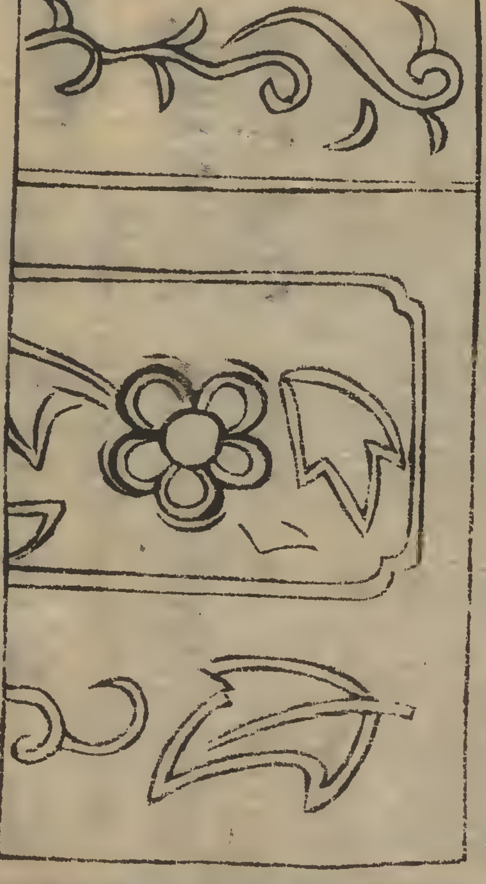
師斗目水牛（スイナワメ）

ひろやく縞とありて
縞を附るものにして
其さうらんより若菩唐のやうう
なり俗に藹通（アラドシ）といふ師のごとく
ありとりつく本家にならふと名付
其華数て右後のものは渋菜
猩々なり立（？）ひとへ大なるとちがひ
三色を一すぢ組にし染したるもの
は和製にて有まり



紋小豆革

小紋（モコ）は本邦の製にして
こゝ四にても多くの作を
あらはすとも其にべらうとのなり
紋のみを多く染入紋記（キ）地きづこて
そしと縫てくなましうさん紋甲
底りく縫をかけし紋様の和とを
おうと辨じて目利すべし





裏



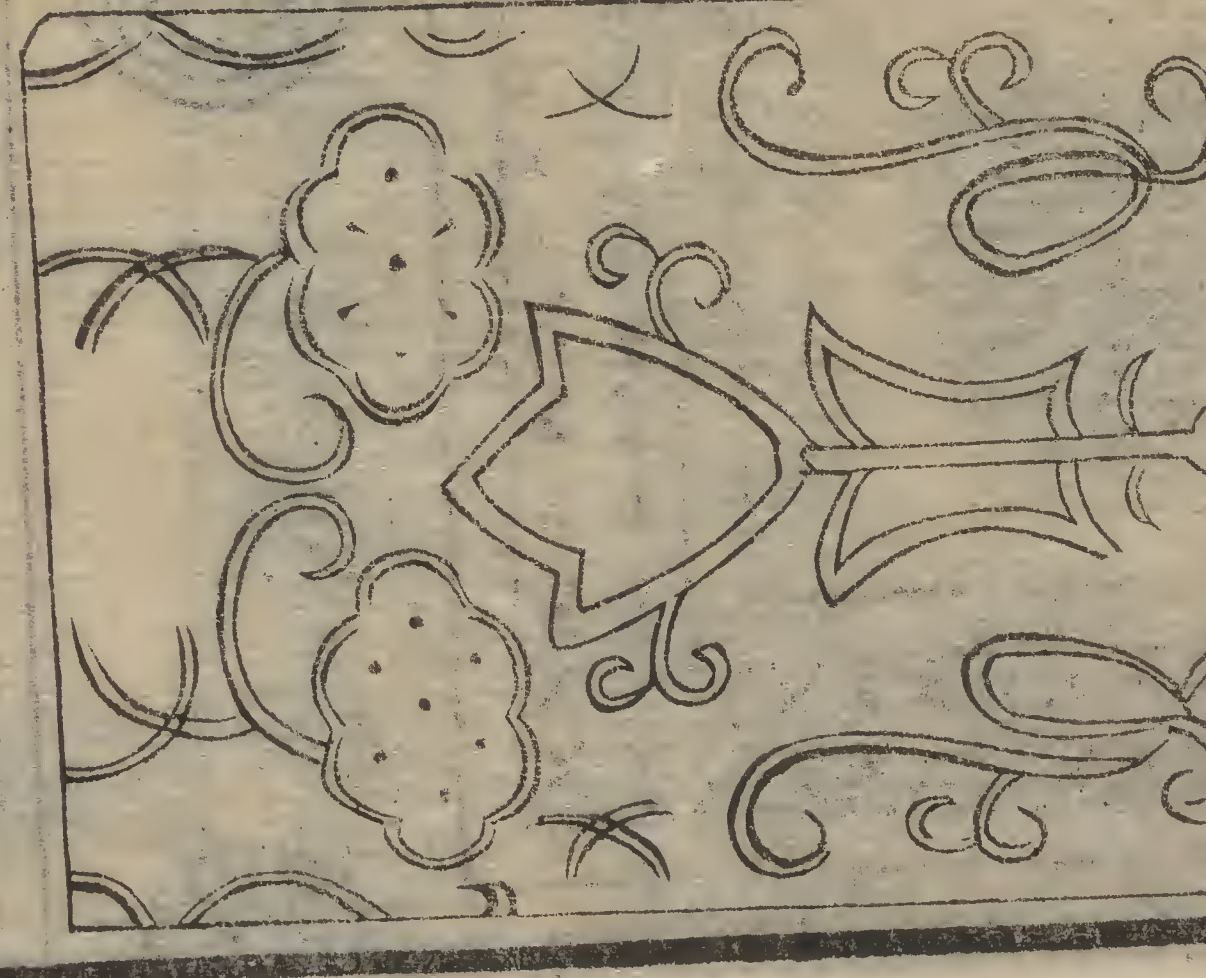
表

苔華（コケ）

蛮人の製にして緋ゝ絃
華また翁華又ハ根華
伊勢インデンともいふ也墨（セイ）添（シ）にて菖
の紋と藤巴しそのうそくらく表の
うらはむかのくゝしかたをらうつしたる所
一ろ宗て雀斑（ニツケ）巴のとのうて全体の
おさまるかうきいふなら獣またや走虫の
の獅かうさけるそうそたりかへし



南京繪華（ナンキンヱ）　紀ふの製そを多いろしとのつや絵やう紋をゑするをとうとえうなる華懐又暹羅緯段のれと借ひそのりとそくそう



紋百爾齊亜（モンハルニヤ）　和製なきとも舶貢のものふ擬ひもやうを出きゝく彼多く地厚し



蛇手（ヘビテ）

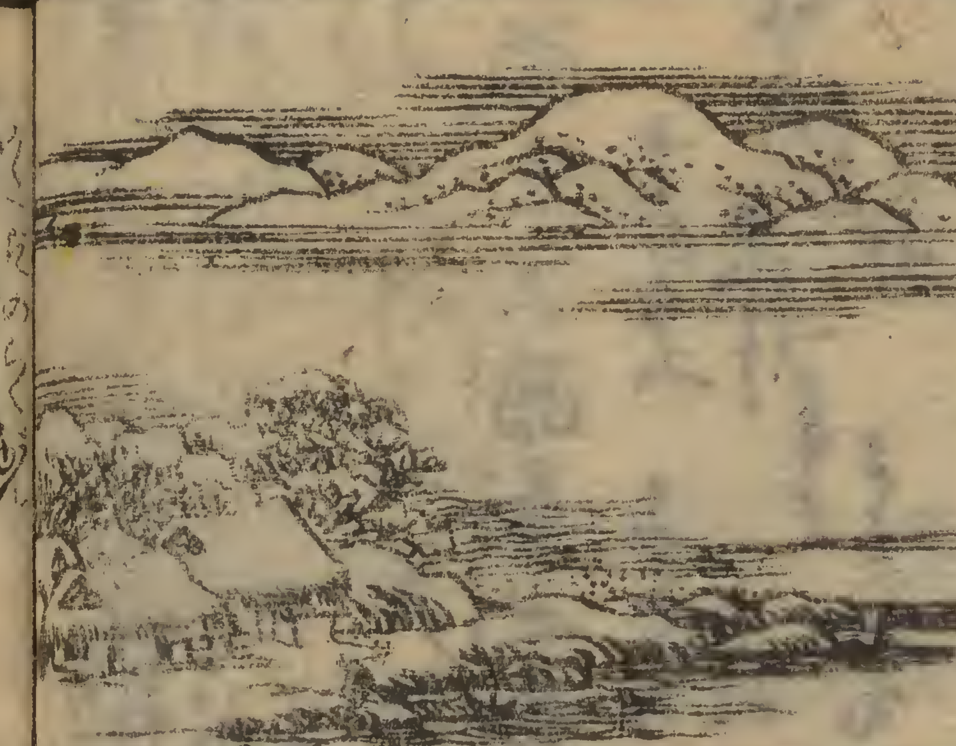
りやう留のとく地ハ黒漆く
很纈糸を加へしやうくろく
光えわりくさらりくしとけうろ（ネコドリ）ほ係まと
りやうへハゑみとをそきく紋さう革
つさらく土の中巳のさきくてうりとのかのあり
一種花斗と画かうるあり やけつく
りやうの糸ハ紋帯すてらら新して
紋色しくあをのせて唐人の製
なり畜絵華の様もよし 一説
けお紋を文字ぁふして全唐華
と綿ぶ万宝全書ふ全華 合
唐焼とて二つ種のうち出たるを付
多く流布せしあらし而あらうか
なるべし

人形手

昔のよく人形あるとひてひ
名と稀もの家がうる品四
品あり地色濃は青そとまらの品ものの糸経
経不な古き書寸大さ新たに人形の小紋天
紗まのこ能き華ならし 紋ハ官窯
亜なる文様を総なきそくて地色濃
気のすく中へハ狠なるあるれ
紋色下のやうにて狠たどらんとく
纈纈のとく大き紗に人形小紗天
紗すのとの菜 ところしてよわし
次なり志へきでも地色さめてくよ
おおそ帯代のおなりまさに紫
きうてのやうの紙 纐纈（ドングダ） 大き
二人あ手あ紗又人手華 秋らかなる
とのて地色とうとも一面に人をると
うつて大きおのごとく猿ゝうかなり
各人物と画き分てそれ今華
のみなむ分くとくまおはず所ゐく
ころをつけるとのそて りやう
出し絲下なりうとし全華
絹華あり万宝全書に載せて
全華のうひハ古枝つきとて織
金色ととれもとのなりとみてしう
麦又有りハ新なるてあれを
古枝織写となるなり

比良暮雪

[illegible]



定

[illegible]

禁制　当町

[illegible]

細川陸奥守様

細川陸奥守内　秋山左門様

細川陸奥守内

出雲國侯人　山中鹿之助

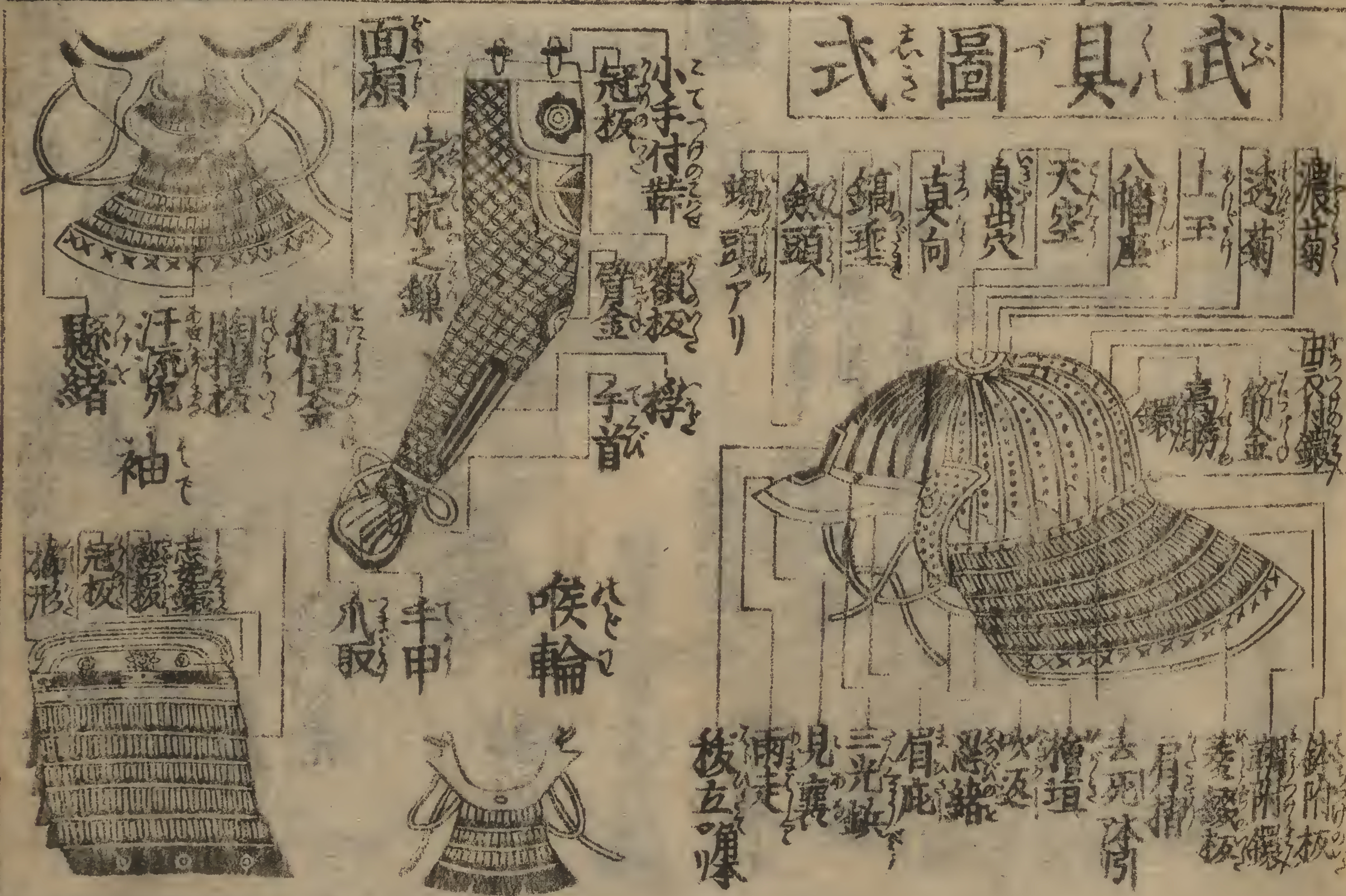
[illegible]

堅田落雁

[illegible]



武具圖式



贈積物之圖





[illegible]

淀屋革

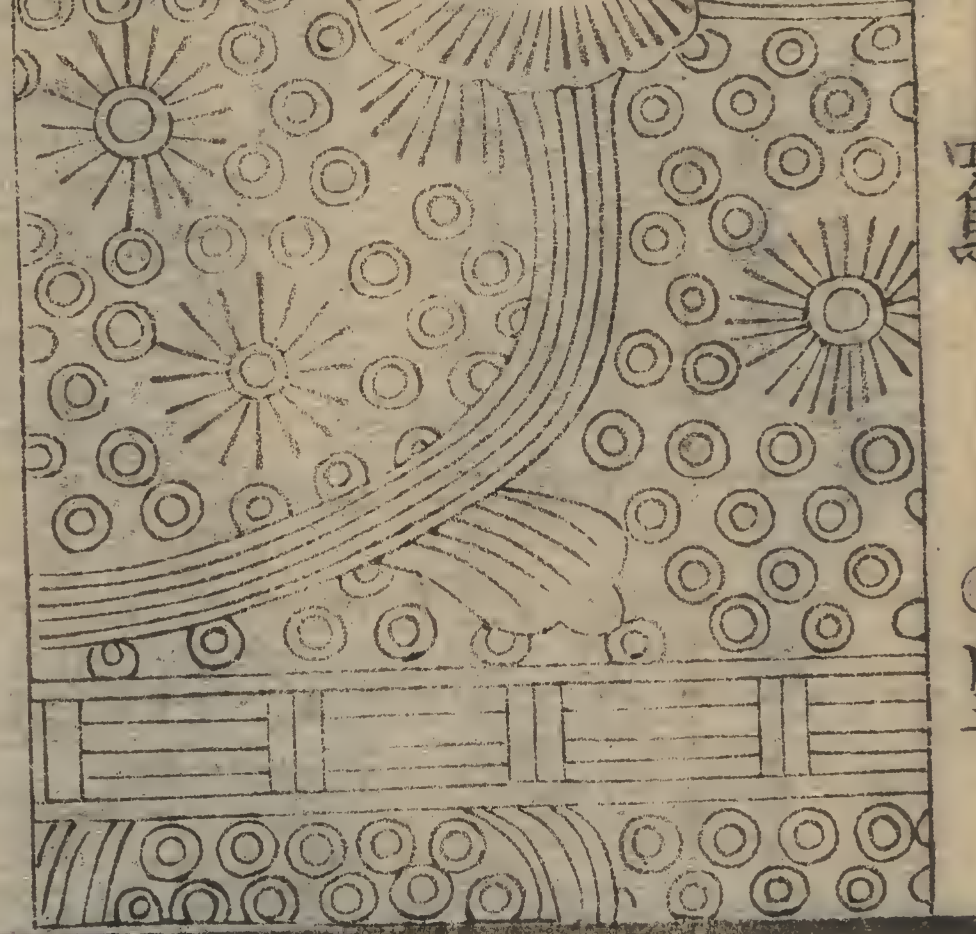
革の性ハ古革にかぎらず
極印にて出し其様
をうつし図のごとくなるをかく
脇差のおこそなる古しけ革大
坂にて淀屋古着をはじめし人の徳
義なるをもつて名付しなり又
ず便まし



極印手

あふりつるやくなる革ハ根
扇と製しなりそめ也
叶革のて東人をのせをなかめのごとく
一せんこるをとりそ屋のてさらり
と淀屋革のごとく其様まなり
記しるとめく





羅紗手（ラシヤ）

又火口手とも云 地ハ白緞（ビヤクダン）なり 鉄
色のちゞみしわやうの花形紋
のごとし 此手紺地もそかの羅紗
のごとしとの文あり 探花色ハ紺
地あるハ花よりそり入し一
などすゞさことの白さつの文
みちふかけし 紋ちうどのゆる
あり あるさ紺天鵞手にも在人
七まきさ名付しあざりなるし
あり 性ハ八九しやなり



鏡の奩（ス）

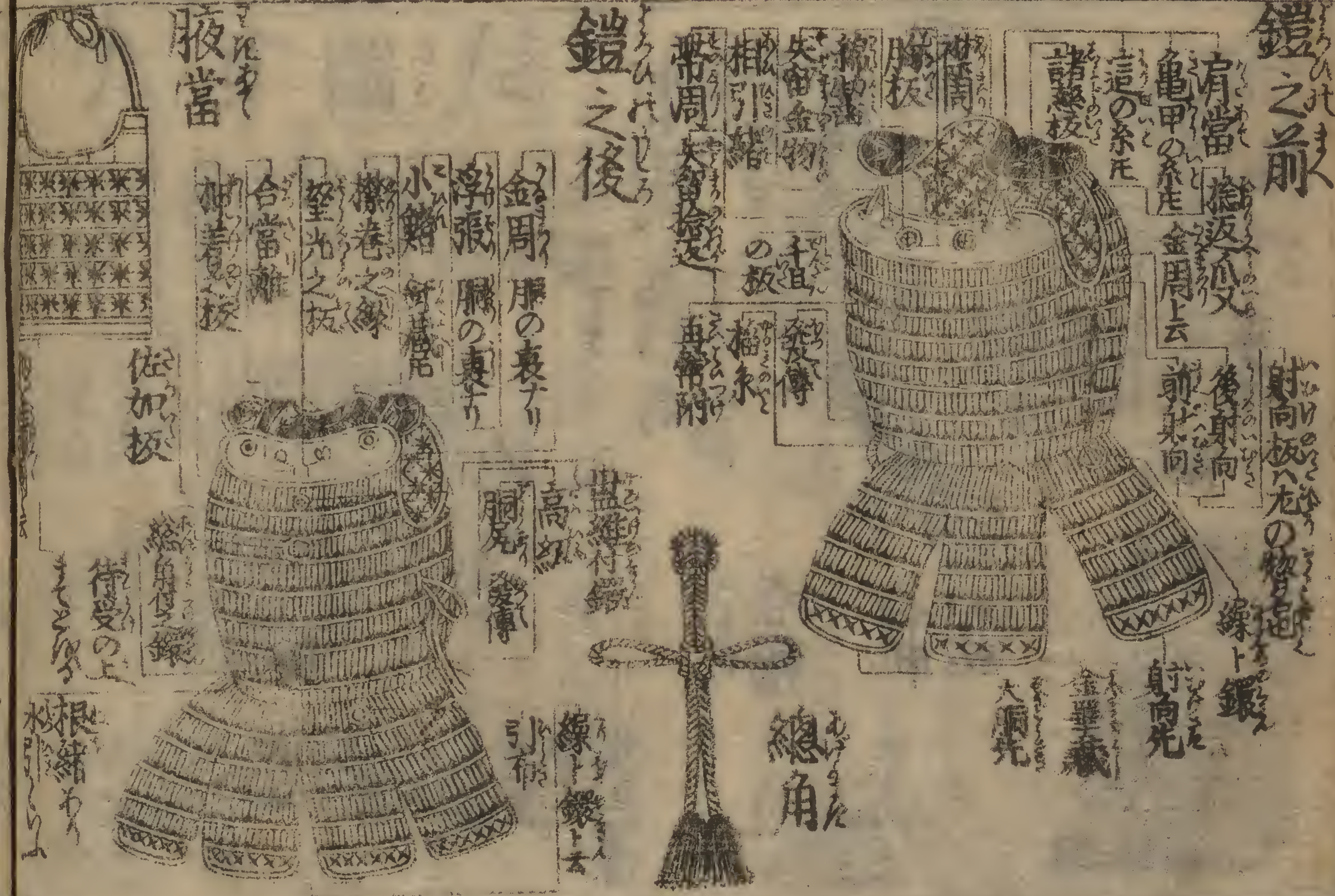
紅毛人（ヲランダ）鏡奩（カガミイレ）と書す 用白地
此名あり やうやう形ちか少 ○花の
やさしき森しきにして葉ハ緑
なるをさこぶかる 廿中二そ
前上のとのかうつ○らをうづく
紅あれハさぎやくしも 地ハ濃（コキ）紺（ニ）
のうるてきがめくいふくも
なり○地浪にて七宝のでまさ赤
出しあるハ紅によるさ
○地色一なりて朱漆も漆 濃（コキ）
漆（ハゲ）多きにい茶（チヤ）褐色のの漆
やうまハ石黄（キワウ）色漆なるもあり

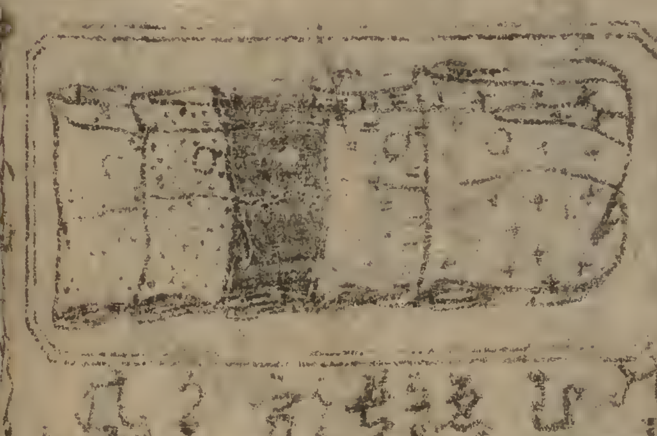


石山秋月

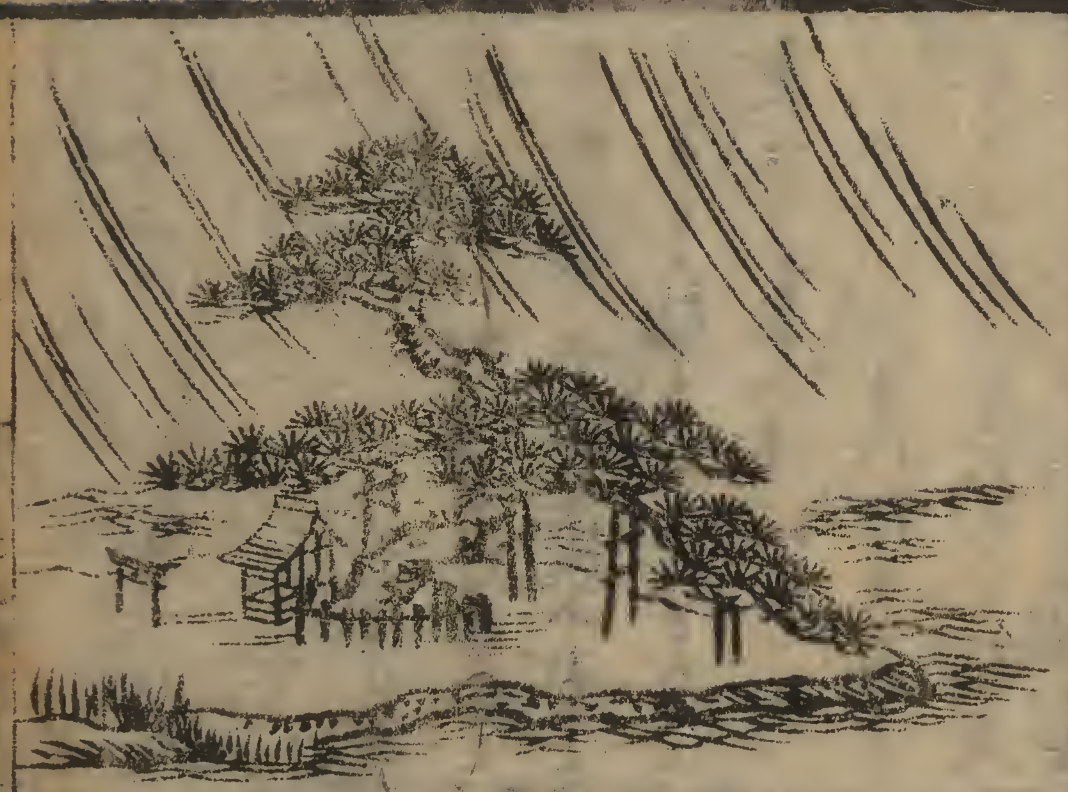
秋風蕭颯一天涯
霽後江山不帶霞
古木回岩宮殿敞
吟遊香霧中花

いしやまやにほのうみてる
つきかげはあかしもすまも
ほかならぬかな







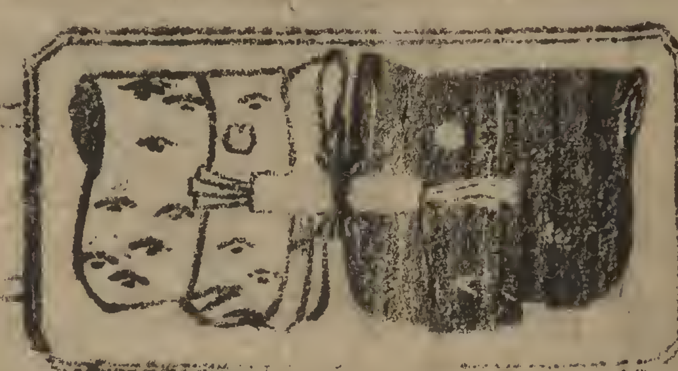


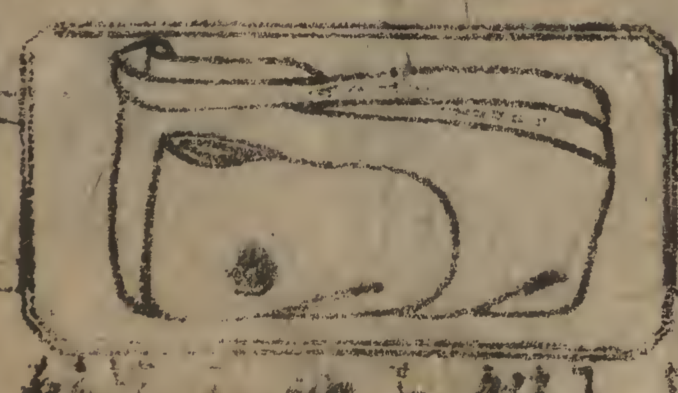
唐崎夜雨

澂澂湖光翻露晴
疊山色暮雲横
一夜
半化松風半雨聲

夜のあめにおとをゆづりて
夕風をよそにたてたる
からさきの松







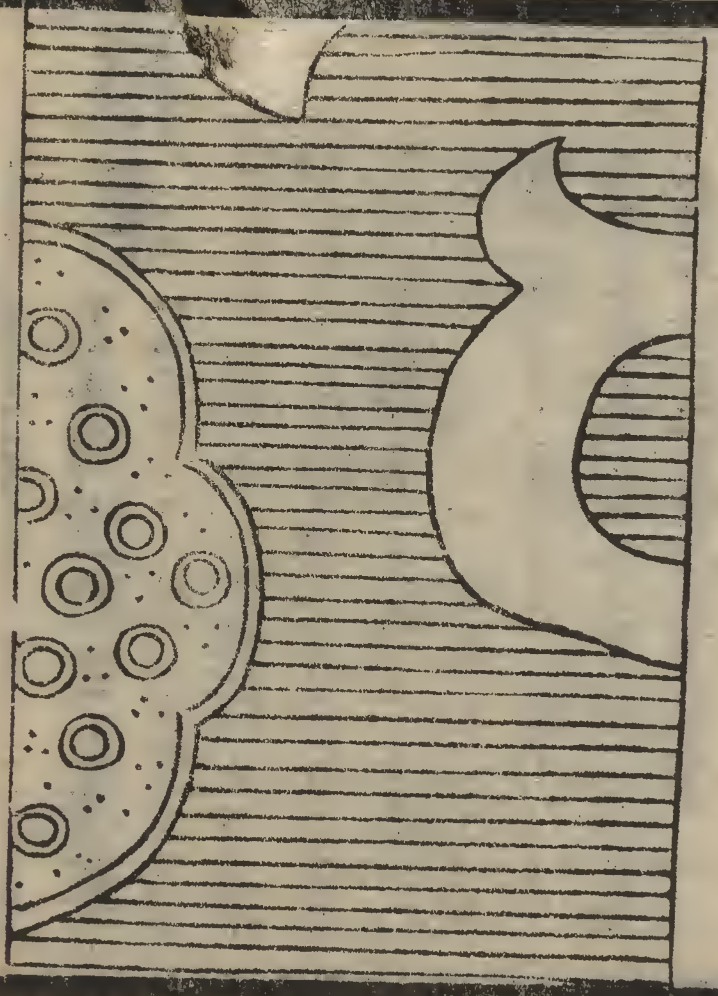
いろ佛像に華ハハルヤと装するまきく
うるとゝうて為し大サ一尺五寸四分ヨヨ中六
寸なるハ大の方なり小ハ一尺二寸中ハ四寸七分
從根ゟ道の巴八條く也是を本道の扇て
用ゆる華鬘大さ一尺二寸ゟ一尺あり
扉の彫刻しるかるゝを法月ゟう





花瓶手（クワヒン）

今時の間近（マヂカ）くなりたる
花瓶ゟ花を挿ゟる器
あらゝれて名をなすをハ華瓶とも富貴と誌
せるを華軟そふ京の物あらず



銀華 また若華の一名を銀葉と
いふ ぐらこといふ 別にしりやう紙の
ごとし 二度あり 一面銀のうす
やぐんにして 粉なく きら出しける
そのうへ 華をあらはしるまで
あるなどとろく 又手を剥く
裁縫しにくし けれども
まれ 少すらふの その大さ 二尺
三寸 二尺七寸ばかりなり



百合手 地色銀のよふを模様はのや
うすあかくて 紫のなよきはりきやうを
紅にうくるの 黄石合花のごとく
なるをもつて けらふあり 華より硬し



琉球文華 ご他と朱まそめう
こまかにとけ あかく
うれしきなるくまいとうけて山の
振の毒まとる人のあはなどく 紅藤
綴と云ふ 深りて 重しとのうく
うら出し うるおさあらずを皮
硬が田あらふとうあやさなどよれば
折目の為よう 末のきつくある
なり 久しくその色あさきうて
ひきすと剥くるなり



拓榴手（ザクロ）

紗綾今革の中にては革とうめとすれはるよう京綾まうとへ牡丹やうの小を性ハルトヤきを太さ二又ハ手と又のうつかなり



青地

地萌緑（モエギ）の手やと五寸とやうらつてうやうの景のごとく浅赤ハきそ紗よしうら太さ紗綾らき革のやうく性よろし



大模様金革

りうきうのやうく金花ならべ
彩色あり玉をほどく革性よし



小模様金革

又桜ともいふ模様の
ちいさき花の数を重
さらさのやうなりそめて染まるの
花のごとくふとく画き革軟ニ性よし
よし後にかりのものは花のごとき細
く革性硬く彩色うすくつゞく
かたまりあり又ハ彩色ことにあり
かたり松梅のまる花大模様かたち
やうこの四品ハ家ノ年中の船
来なり

淀縫

このたびはあつらへにせ
トメハルシヤ 紅革 金革
又ハ白のハルシヤなどの裁ちくしと
ほそめく巾着袋入れの料となる
かならず色を取りて花のかたちを縫
ひ補ひろうかなり山城淀府
にて細工するゆゑ淀といふ色あり
他所にても是を製するものすくなく
淀縫といふて



唐華終

○佩缶(サゲモノ)

巾着ハもろしの燧袋(ヒウチブクロ)の遺風なり
火打袋ハ古事紀および日本武尊東
征のとき相模国にいたりて野に遊
ばれ敵まさに其野に火をつけて焼んとせし
とき姨倭姫命より給りし袋の口を解き
火打ありて火を打て向ひ火を付て賊を退け給ふ事を
世に火打袋と名けて伝ふるものなり
太平記にも巾着と燧袋のように見えたり
これ今の印籠の類なるべし 印籠ハ元来
判印肉を入て是を懸てさげたるもの也
薬籠と印籠の二つをならべる事と中さへ
合せ用のぶにありしことよりおこりて 薬籠(ヤロウ)
薬籠(ヤロウ)と云へば薬籠よりおこりて薬籠印籠
の名を合せて印籠薬籠はなれずして佩缶の
随(ツイ)に用るを根付と云ふるとつなぐ緒を付
会するおのおの緒あるに依て備ハ華
類のものと出す緒て根付備ト云
と云ふ佩缶の事を定むる

○印籠工名譜

凡印籠師名有テ氏シレズ氏ノミ
称シテ名ノ聞ユザル等スベテ名
姓字号ニカヽハラズ云ナルニ任セテ
コレヲ集ム只恐ラクハ其差謬ア
ランヿヲ 識者正焉

堀川 久次郎ト称ス梶川彦兵衛ノ弟子江戸ノ人
古今ノ名人コノ作重ノ裡ニ刑部梨子地又平目梨地トモヱアリ

古満休伯(コマキウハク) 御印籠蒔絵師江戸住 二代目久蔵安巨

観子破笠(クワンシハリツ) 江戸ノ人コノ作ニハ必楽焼又ハ堆朱ニテ八染付ナドヲアシラヒ仕立ルナリ

近直 姓氏居住未詳

春政 京ノ人塩見小兵衛ト云

塩見小兵衛政誠 京ノ人蒔絵ニ長ズ 重ノモノ多シ

加兵衛 京ノ人加田ニ加兵衛 子リトモ称ス

山田常加 御印籠師 江戸ノ人

法橋光琳　緒方氏名ハ方祝通称ノ金屋藤十郎又三勝六ト称ス青々堂ト号ス京ノ人茶道ヲ光悦ニ学ブ故ニ印籠ハ光悦好ノモノ多シ蒔絵ハコノ人一流ノ繪ナリ銘ハ蓋ウラニ記ス江戸ニ住ストモ云享保元年ニ没ス舎弟乾山ハ陶器ノ作ニ名アリ

田付孝則　極　江戸ノ人カ

同せう女　極　孝則ノ親族カ

桃葉齋　源六ト称ス江戸ニ住ス阿波御抱

野村九圭　次郎又ト称ス江戸ニ住ス

同　樗平　次郎兵衛ト称ス九圭ノ弟江戸ニ住ス

圓阿弥丹後　江戸ニ住ス三キュ至テ見事ナリ

幸阿弥因幡　同上コノ作丹後ニ等シ

奈良八左衛門　江戸

望月重蔵　同上

狩野十九旭　名ハ建元木村氏文次郎ト称ス江戸ニ住ス

巣野不幽　名ハ重春木村氏甚右衛門ト称ス江戸ノ住

温故長寛　覚々斎ト号ス江戸ノ人

土田半六　江戸

刑部太郎　同上

奥村罰兵衛　同上

安川　大坂ニ住ス姓名未詳

鈴木正義（印）　京師ノ人

友忠　根付師ノ條ニ出ス蒔絵印籠ヲ製スルニモ又象牙ニテ彫成シ図ス二七賢人又ハ竹ニ虎ナド巧ニ彫刻ス

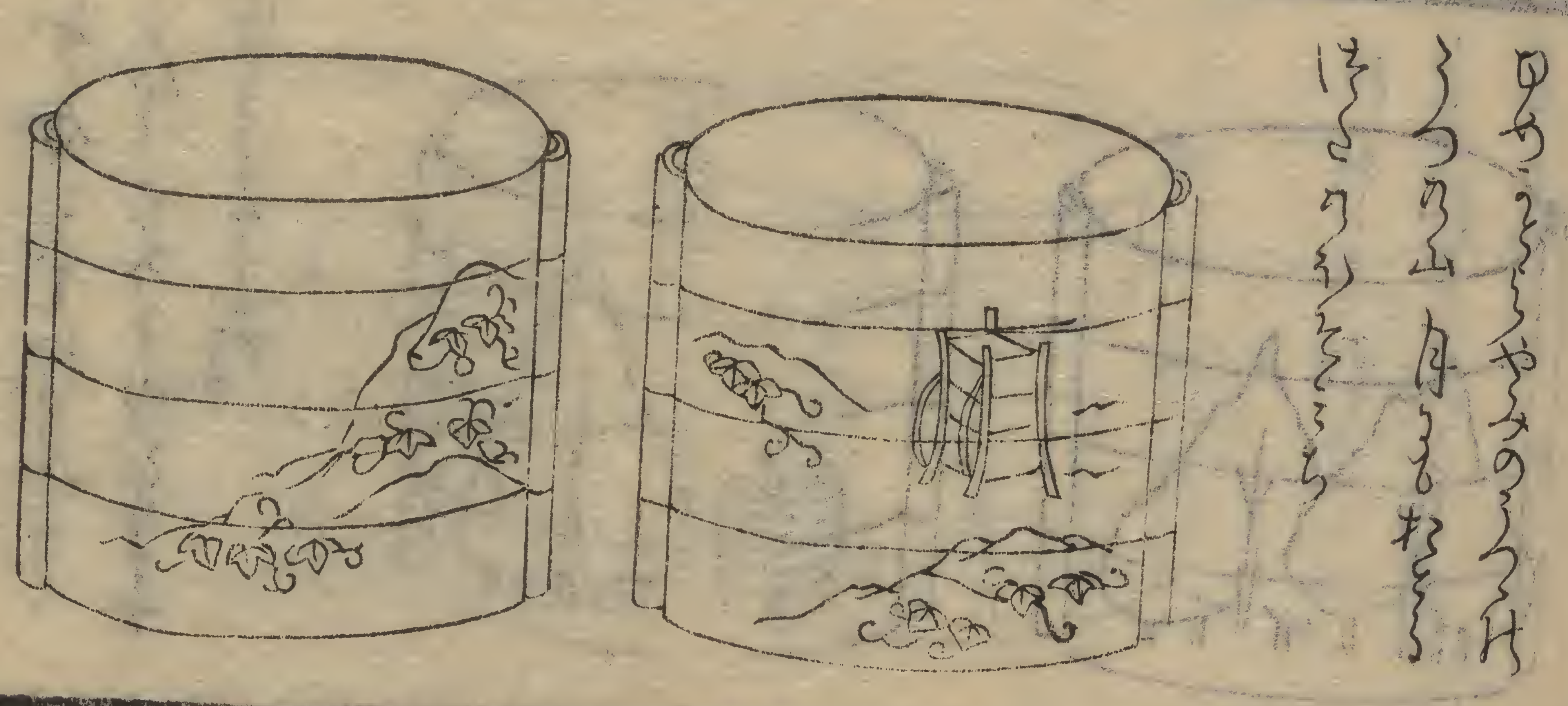
蒔繪師市兵衛　大坂ニ住ス貝入ノ並ビ印籠ナリ

清兵衛　世ニ清兵衛ノバラ印籠ト称ス重ヲバラバラニシテ合セニ下ヨリ上ノ重ニ合セ裏ヲ表ニ合セテモ其工合ニ寸分ヲ得ルヲ以テイヘルナリ印籠ヲ目利スルニハ惣テコレヲ以テ試ルベシ宝永年間ノ人

春正　次郎兵衛ト称ス京ノ人

清水源四郎　江戸ノ人コノ作ヲ世ニ桐ノ角ト称ス

蒔絵師市大夫　加賀金沢ノ住加賀御扶持人代々印籠師ナリ清水源四郎弟子加賀ノ印ロウトモ云フ風アリ世ニモテアソブ



加賀スミエノ香合モコノ人ノ作ナリ
茶人ノキコヘアリ

蒔繪師藤蔵　市大夫長子

同　友之進藤蔵弟　同市之丞藤蔵養子

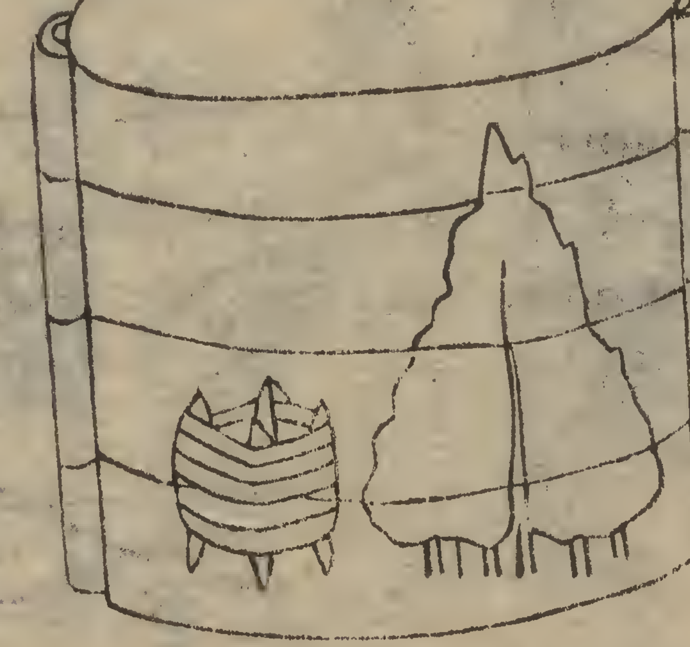
同　庄兵衛加州金沢　同庄三郎上ニ同

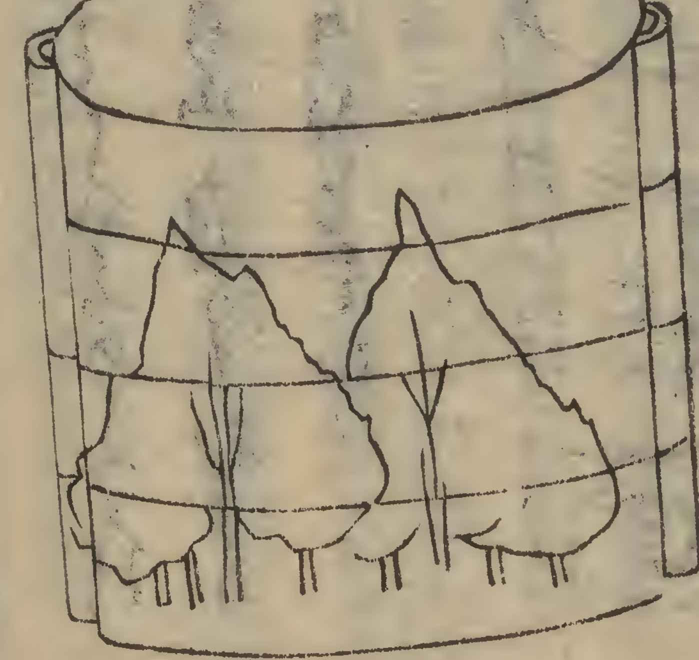
右ノ外印竜ニ其名ノキコヘザルモノ幾百人ト云ヿヲ知ラズ今其銘アリ名キコユルモノ價モ其程〻論ズルモノヲ挙ク猶鈿螺ノ取代モ或ハ琉球　貝入堆朱グリナド唐ヲ学タル長川印竜ノ品下ダリタルニテ其數ナ公ベカラザレバスベテコヽニモラシツ

此書モト好事家鑑識ノタメ便ナラン至宝ヲ専ライトスルモノナレバスベテ事ヲ細密ニ記スヿ能ハズコトヽクヨキナ引用ノ手書ニユヅリテ只ソノ肝要ノモノヲ出スナリ価拙ヲ省ス傲然トシテ事畧ヲ撰ヲ旨ス夜ハ其罪ヲミテノムヿナカレ

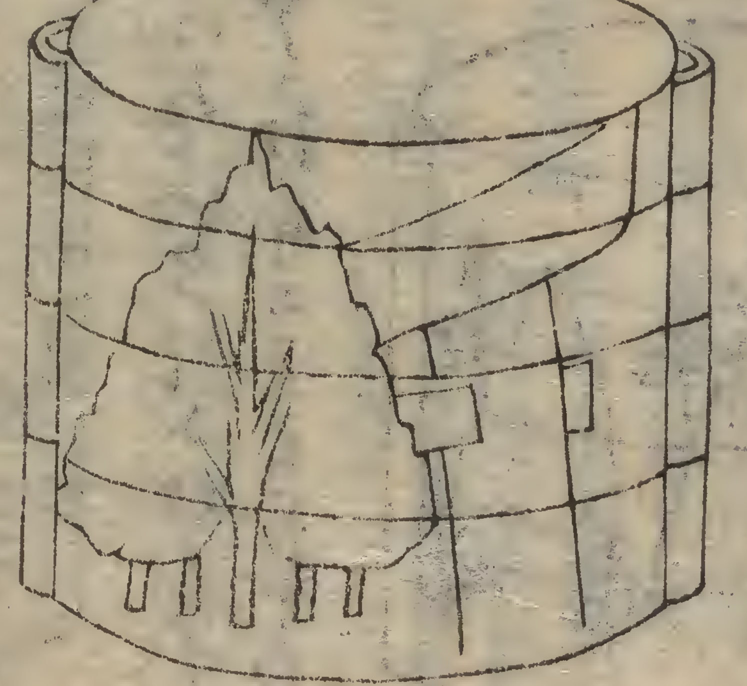
○生貝入名物印竜図

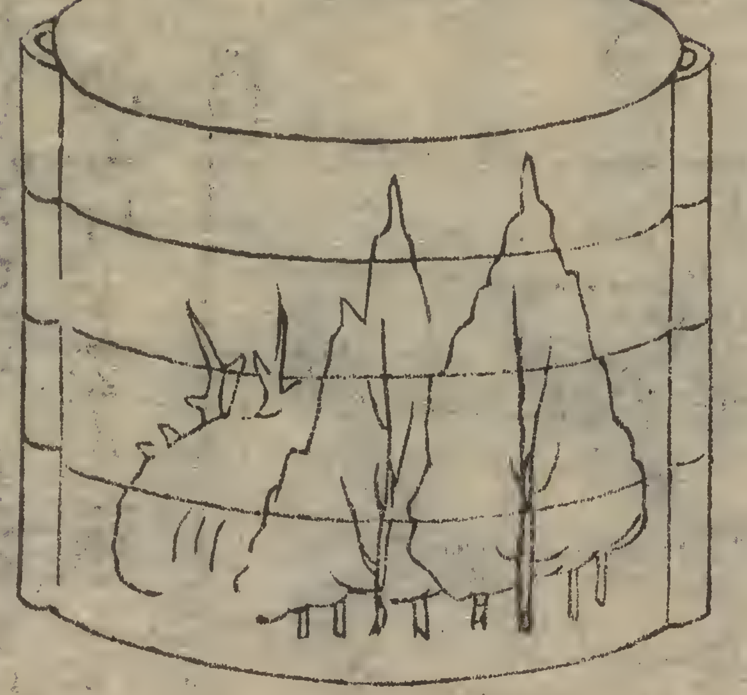
ありたきこゝわかり山のと
らしこまとふりひきまはせ
すさまそろ門





春日りみふわりかつこ清
よろ川をとつくゑも
神社志清郎









○根附工

法眼周山 吉村氏諱ハ充興探僊ト号ス俗称周次郎卜称ス大坂ノ人又画ニ名アリ二代目ヲ法眼周圭トイフ

雲樹洞院幣九 姓氏未詳大坂ノ人素刻ノモノ多シ

小笠原一齋 紀州ノ人近来無双ノ名人ナリ象牙鯨牙等ヲ用テ彫刻スルコト至テサイミツニシテ人ユノ及ヒカタキ手際ナリ

三輪 姓氏未詳江戸ノ人コノ作サラ木ノ素刻ニシテ紐通シノ穴ニ萌黄ノ染角ヲ入ルヽ子供ノ獅子アソビ蛸獺師ナト稀ズルモノアリ

和流 姓氏未詳三輪ノ弟子ナルヤヲ作三輪ノ形ニ倣ラヘル彫多シ

蘘荷屋清七 大坂ノ人素刻ノ上手ナリ

九郎兵衛 大坂ノ人彩色根付ヨリ周山ノ刻ヲ偽造ス

根來宗休 大坂ノ人 **龍木勘蔵** 同上

又右衛門 紀州ノ人 **雲浦可順** 大坂ノ人

岷江 姓氏未詳勢州津ノ人木刻ニ色々奥ヲツヘタル巧ミヲ尽ス

伎今ハ達ナヲホルニ其眼クルくト轉働スルハナハダ妙ナリ

春周 姓氏居所未詳　廣葉軒吉長 京人

友忠 和泉屋七右エ門ト称ス京師ノ人牛ヲホル丁妙ニ至レリ

勘十郎 大坂ノ人顔手足ヲ象牙ニテ作リ衣帯ニ黒旦ヲモチユ

田原屋傳兵衛 勘十郎弟子　我楽 傳兵エ弟子

為隆 尾張ノ人喜多右エ門ト称ス人物ナドノ衣紋ニカラ艸ヲ堆クホリ上ル

河井頼武 京師ノ人今作至極キレイニ摸スル所ノモノ一名アリ

草花平四郎 大坂ノ人草花ヲ彫スルニ妙ナリ

法眼舟月 樋口氏大坂ノ人画工ナリサイク甚タ巧ナリ

佐武宗七 大坂ノ人彩色象牙木彫ナニテモ上手ナリ

柳左 江戸ノ人御挽物師ニモ、クワラ根付ノ上手ナリ

十蔵 紀及ノ人　柴田市郎兵衛 大坂久

正直 京師ノ人　岡友 上同

印斎 大坂ノ人みさ屋傳兵衛ト称ス象牙狙公ノ作者ナリ

是楽 江戸ノ人　三小 大坂ノ人

吉兵衛 住居未詳　辻 同上木彫バカリニテ象牙ナシ

畑友房 作及津山ノ人畫師勘兵衛ト称スヌリモノ根付作人

次郎兵衛 大坂人角ホリ　亀谷肥後 同上平助

和性院 大坂ノ人彩色ホリ　牙虫 居住未詳コノ銘アリ

清兵衛 京師ノ人世ニ潜岳工彫ト称シテ名高シ

近江屋七加兵衛 大坂ノ人　玉治 京ノ人

大黒屋藤右門 京ノ人　友乱 京ノ人

霞鶯 居住未詳　宣元 同上コノ銘アリ

長尾太郎市 紀及ノ人小笠原二介ノ弟子

竹内弥須平 同上彩色根付師ナリ

光春 京ノ人

出目右満 江戸ノ人御面師面根付ハ自然ノ妙ヲ得タリ又出目上満ト云ルアリ右満ノ子ナルヤ凡出目ノ銘アルモノ外ノ形ナシ

豊島屋伊兵衛　大坂ノ人スヒガラヲ以テ銀又銅ノハリカ子ニテ一楽ノクミモノヽ如ク組タル根付ノ作人ナリ又瓢箪モアリ

唐物久兵衛　泉州堺ノ人錺物師唐カ子ナモノ、根付

一楽　泉州堺ノ人土屋氏望簾軒ト号ス籐又ハホヽキ籐ニテ組物ノ腰サゲヲツクリ出セリ又瓢箪ナドノ根付ヲ組物ニテツクル

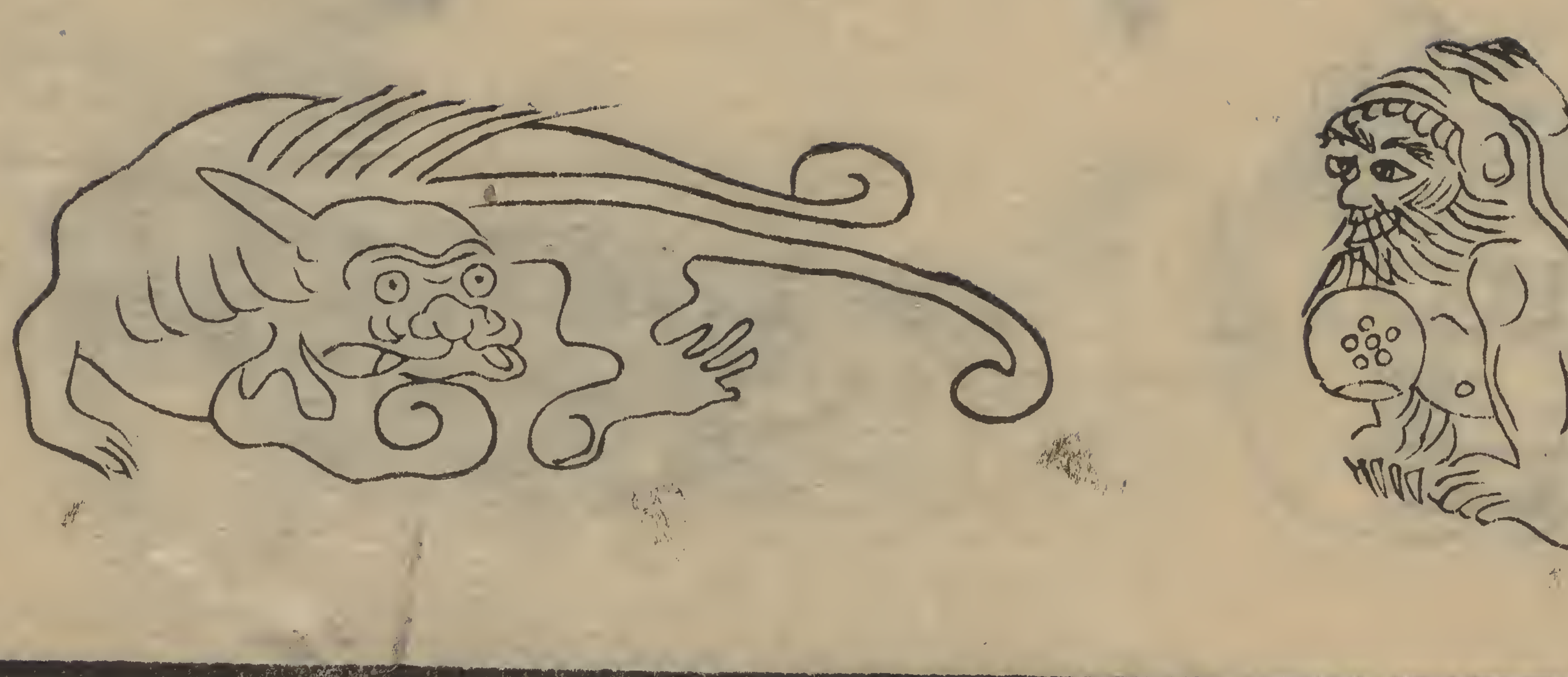
中山大和女　江戸ノ人象牙ノクワラク根付ニ獅子竜ナド至テ細密ニ針尖ニテ毛彫ニシタル彫ニシタルモノナリ

宗和　名重近金森長近ノ男従五位下飛騨守剃髪シテ宗和ト号ス退隠ノ後チ山城宇治ノ里ニ住ス茶道ニ高名ナルハ世ノ人自ク知ルトコロナリ又清閑ニ乗シテ宇治ノ茶ノ木ヲモツテ茶ヅヽニ女ノ躰ヲ彫刻ス其風流ノ刀法世ノ人コレヲ賞シテ宇治人形トイフ

立圃　野々口氏京師ノ人雛屋ト称ス寛文年中ノ人俳諧ニ名高シ書画ヲヨクス又彫工ニ妙アリテ根付ヲ彫刻ス

奈良人形　南都元興寺ノ大門ノ古木ヲ以テ彫タルモノナリ

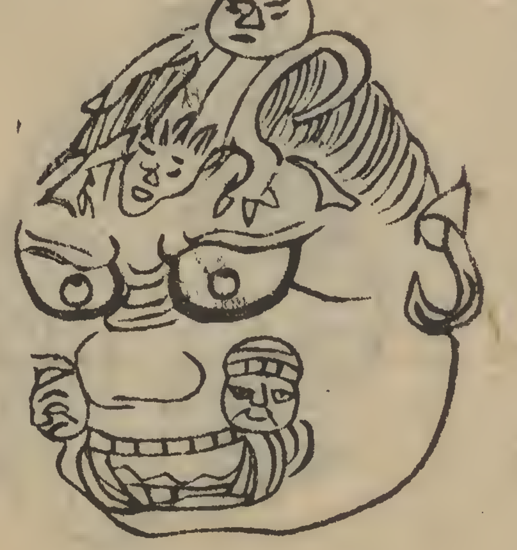
周山



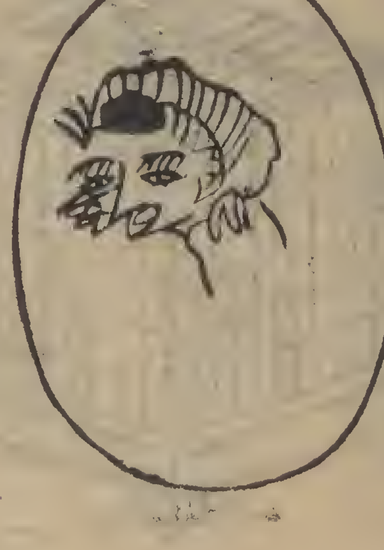
飛龍



元興寺假面



啐啄

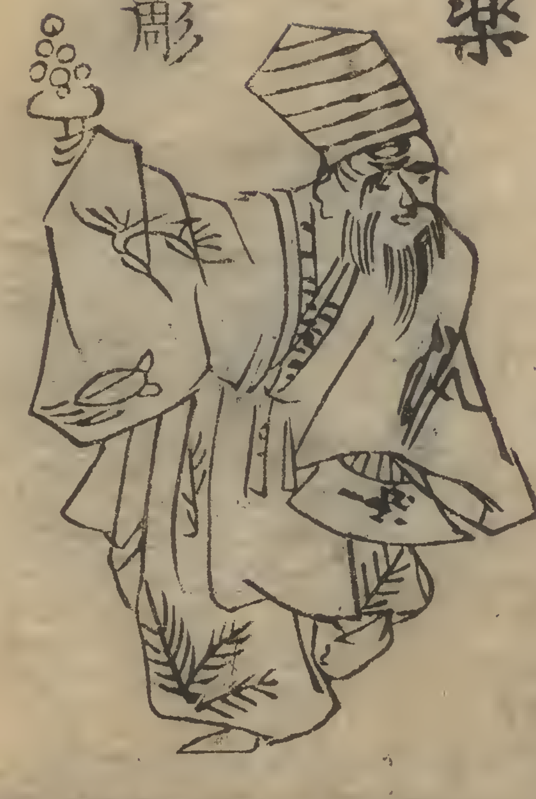


人魚



猿楽

一斎彫



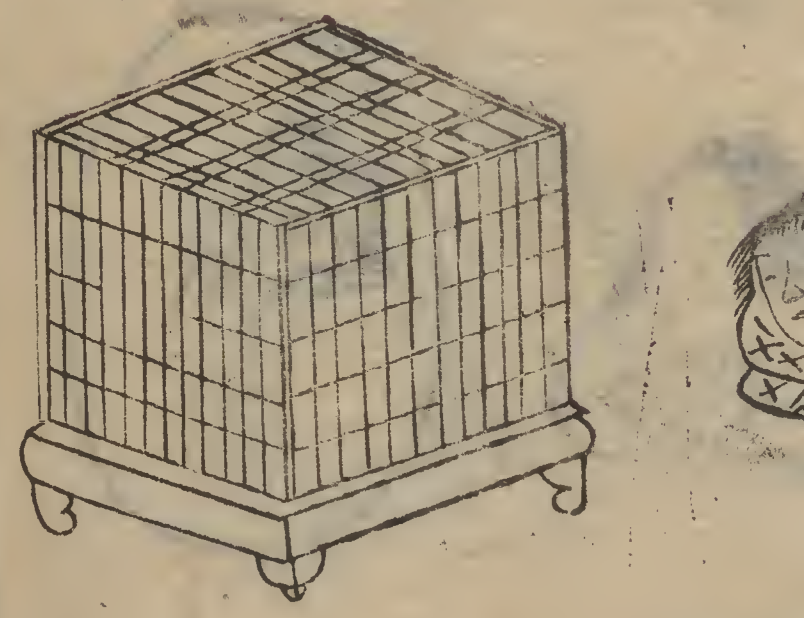
拍毬



俳優



樊禽



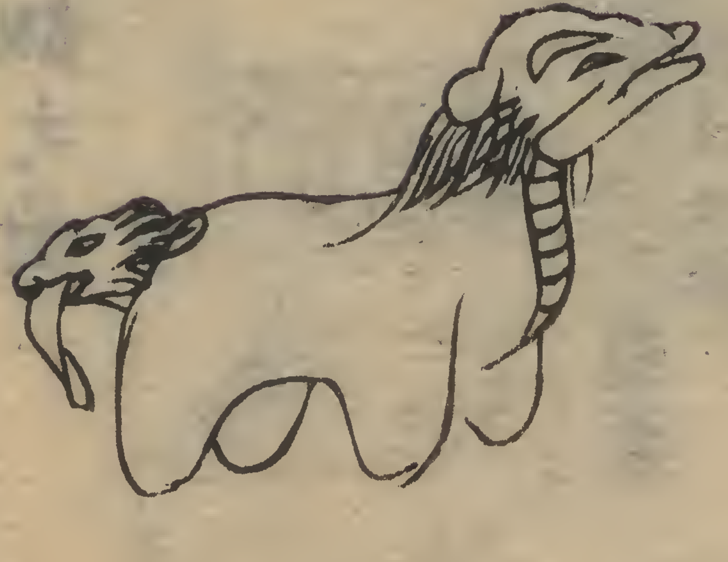
○唐彫根附図



裏印



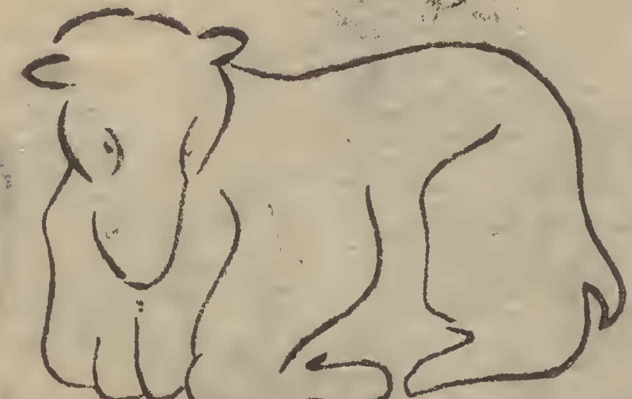







作皇叅以自常捕

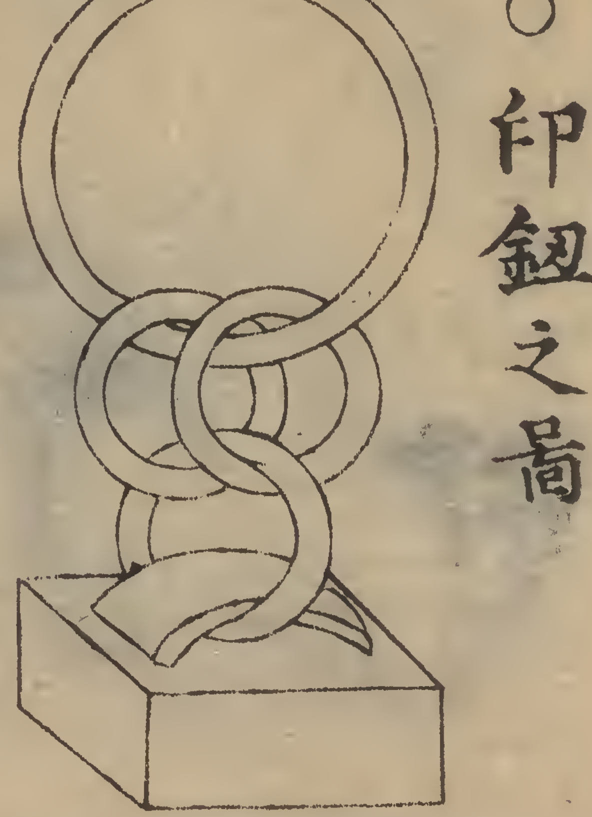




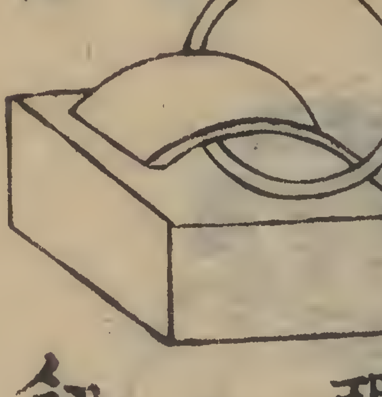


○印鈕之圖

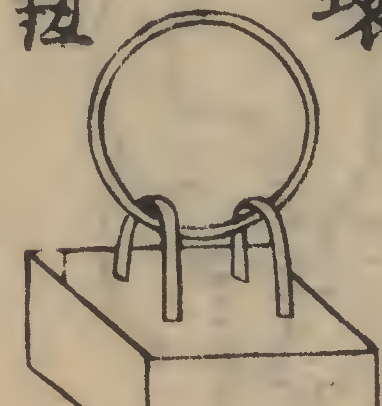
壽亭侯之印及関南司馬皆用此鈕



連環



環鈕



環鈕



亀鈕

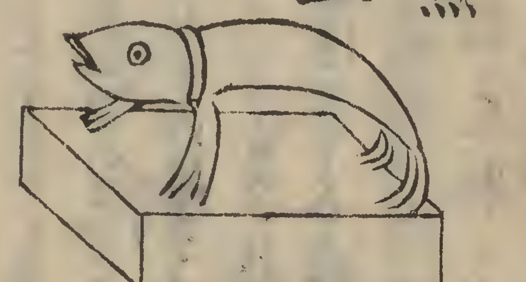


駝鈕



瓦鈕

鼻鈕 トモ云



魚鈕



辟邪鈕



牛鈕



鹿鈕

○緒卜玉（ヲジメ）

珊瑚（サンゴ） 俗に珊瑚珠といふ 雲根子に
出づ うるはしきものにてすこぶる交
易には亜媽港（アマカウ）より来るを上とす 於中
紅の色よく糸すぢのあるを上とす 〔illegible〕
とす 粒大にして珠のうちにうす紅を
帯びたるは 〔illegible〕 又唐へ合せて糸すぢ
のあるもあり 〔illegible〕 なり
血玉と称するものは 〔illegible〕 なり其の
紅に黄色のものあり黄さんご
珠と称すべき品なり

琥珀（コハク） 本草綱目にくはしく出づ古渡を
上とす新渡はおとれり
黄色なるを上品とす 〔illegible〕

瑠璃（ルリ）
瑠璃珠 〔illegible〕 なり
〔illegible〕
頴もとより 〔illegible〕 新
又は地下にて 〔illegible〕 珠の
中くらき紫の紺 〔illegible〕
うるはしき 〔illegible〕
〔illegible〕 瑠璃のできる
〔illegible〕
〔illegible〕 大秦より
の硝子の 〔illegible〕
出ニ赤白黒黄緑縹紺十
種ノ流離ヲ出ス自然之物にして
〔illegible〕 縹

〔illegible〕 なり

硨磲（シヤコ） 〔illegible〕 豐州石といふ 廣
東の 〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕 紫 〔illegible〕 文 〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕 稀なるは
〔illegible〕
貝の 〔illegible〕 白 〔illegible〕
出る 〔illegible〕 磨て作る 〔illegible〕
〔illegible〕 價のものなり

水晶（スイシヤウ） 〔illegible〕 本草綱目にくはしく 〔illegible〕
〔illegible〕 するを 〔illegible〕 とす

砂金石（シヤキン） 一 〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕 骨 硬を
〔illegible〕 二 〔illegible〕
美人の 〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕 唐人の
〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕 求めて 〔illegible〕

星珊瑚珠（セイサンゴ）　此玉ハ赤き地に星の
ごとく白き星あるなり
はなはだもつて重宝いたすべく
まれにしてオランダ紅毛の舶来よく
和より出ず希
なり

雲南石（ウンナン石）　此石ハ文をなして五彩の
光をあらはして磨る
ときハいづこの産かや
志らずいまだ本邦より出ず

瑪瑙（メナウ）
出る所
地より　白き根ある山より出るあり
ここにを津軽石といふ
津軽より出る
金剛石ともいふ

猩々石（シヤウジヤウ石）　舶来のこのなり瑪瑙の
ひとつなるさうなくしてその
赤き半輪のごとしまたまく
まめ分のまるにして血石赤脂

キンパク　蠟（ラウ）　これ琥珀のひとつにてまるの
あるに半ばさき琥珀を磨き出し
そのごとく中に虫などある内に
ありて鮮かに見る半琥珀
のたぐひおほくいはゆる濃きも
あるもあり鮮明なきもあり
そのを金珀といふなり

ロハク　これも舶来にて琥珀の一種なりその色
の石墨に似たるをもつて墨珀
石といふ

南京石　又唐瑪瑙ともいふ　石に光彩あるもの多く

ムシノス　又カラフト石ともいふ又カラフトといふ　石
より産する色は琥珀の深がごとく
うつりて虫のくひ入るやうなる
巣のごとく又巣ありともいふ京にも
唐物屋にて宝玩とするもの近

夜光（ヤクワウ）
真珠（シンジユ）　舶来の石決明に産す
これを求めて供する石
まことに小粒なり緒締にもちゆ
るに大さ豆のやう何の貝より
産するや又決明より出るとは
もとなることのあるやすく
詳かならず

七宝（シツパウ）　舶来のものにて五彩
なり紺青緑の色ありて
美なるなれども和にてもつくる
近年平田氏の家に古渡に習ひて
よく作りて柳の作は別にして

鶏冠石（ケイクワン石）　雄黄の中にあるものを
緒締に作るなり

蝋石（ラウ） 篆印に用ゆる石なり古渡の
よろしきとあそびものかくる
などのりやうと
なりて緒卜とす

銀沙石（ギンシヤ） 沙金石のごとくにして
色淡黒に銀砂まじりて艶

平戸（ヒラド） けうふうて名づけたる所
より出る石にて白色に細紋のある
なりふたさまおほくあり石の汁
含とくにふ組て帯にて玉
あしと装ひて緒卜とす

羅漢（ラカン） 唐の硯に羅漢の像を
彫たるものにて根付にする
人の像をそ巧なるあり珠数
のごとく用ひてもちゆる羅漢の
うちもちゆるなり

青瑪瑙（アヲメナウ） 青きさんごじゆのごとくに
おもて透ふりて光ありなし
おもて淡小雲の紋あり瑪瑙の類

金物緒卜（ラジメ） 金銀象牙にて分(?)
細工にて眼のあるに人形又
生眼ある眼ありイモツキあるを
あるに紙にあてて細工をなす
こえてなる

石英（セキエイ） 色紺碧にして出る事あり
世に稀の物にありて緒卜る珍重

して緒卜にもちゆるはあめ色の
そのいろれより出たるあり

白珊瑚珠（ハクサンゴ） 紅色のものなりしも
珊瑚珠にして白し
めづらしきものなり
より出る未詳

崑崙石（コンロン） まゝ色の黒きをもつて
出るをみかけたるべし

琉球珊瑚珠（リウキウ） 又根付に玉珠ともさ
ずる紅の緋丹の
ようなりて巣のうちこのからう

助玉（スデ） 西洋の蛮人未詳なれば
又珊瑚のごとき小壁あり
紅毛人の頭よりとりたる汲
極紫のようへ出る汲なくちとつく
なるものとし緒卜は精紫のぞて
く出ずける造れり好みあるひ
ろ張りてからおりとけるくしく
瞞けれども紅毛にてまたかわ持して
古物のひりなるより上ありたり
うるなりとされ奇なるあまくとて
古物の極紫れまたあり

ガンギ玉 かんぎやう
より名ありし

トンボ玉 このもも吹あなり組組の
虫の巣のごとくをつなぎて
色々緒卜の色ぎるを奥るる
紋ある文字のありけるもの

ことされ

かくくり　吹ものくあむのびと紋

印花玉（サラサ）　まとそさとさのりや〳〵

そでも絲

其のあとし

絲屑玉（イトクヅ）　絲其吹ものかうつろ〳〵まる　りしぎの色のまふ白絲　さ千緑なり中にひらかやし　紐まとの上に陰起す

柘榴石（ザクロ）　色は柘志にまさらず　絲下より月にて吹きあし　今俗石榴実のごとく地は一めんに　獺女あり石後は石のかく新治　はのまも吹ねとらん面白し

孔雀石（クジヤク）　同手　色は柘志に出るよし

緑青石（ロクシヤウ）　同　[illegible]

紫水晶（ムラサキスイシヤウ）　[illegible]　て吹ねとあらず

大理石（タイリ）　石質[illegible]　出ることて斑にあるき　[illegible]　流のまさなり[illegible]　さ[illegible]

蛇石（ジヤ）　蛮名スフカステンと云　是も[illegible]石のあるとあ

なりけるの[illegible]の[illegible]とよ切　あり[illegible]　中[illegible]法とらく　[illegible]べし　有[illegible]なるとも

凝水石（ギスヰ）　[illegible]山の[illegible]　[illegible]石とある[illegible]の地なれば　[illegible]水

薫陸（クンロク）　[illegible]の中より[illegible]の色をうゝて[illegible]す

雀石（ズン）　[illegible]雀の羽のごとき　[illegible]の色あり[illegible]　菜のあまて[illegible]　てまれなり

石子貝（ブツガイ）　貝とこうきころとのまて　[illegible]のでて[illegible]　ようなころと

南金漆附玉（ナンキンツケ）　やさとのまて山水　[illegible]の[illegible]　あり[illegible]のよの[illegible]

鳳天（ホウテン）　[illegible]鳳の[illegible]のからの　骨とらふさう[illegible]の　そのと[illegible]あらず[illegible]　其の精の頭骨なり[illegible]

蠟のごとくして理ありて山に産す
しろ西方の国 朱のごとくなるものを云
葡萄石（ブダウ） 色は紫にして其形ぶだうのごとし諸国にあれど
なかんづく美濃国より出る 緒下にて其ふさを
ろへ一顆として葡萄のごとし
玻璃（ハリ） 白玉にて透明なるものなりそれ
をもつて水晶のるいにして其の硝子と
いふものを作る事あり 天竺の名を
つけしもあれど 水晶は水精の
ことにて水の精を凝て作る
ものなり
眼石（ガン） 色さまざまありて緒下に
作りあり 其形眼のごとき
ものを出す是を眼石
といふ 此の性は白く色もせられ
理ありてあるなり
青石（アヲ） 其色至て青き色なさり
あしく石の性軟らかにして 痛
孔雀胃（クジヤク） 其色青く石の毛
紅石とも云て其形是の羽
根口は木のごとくにして全体
孔雀の羽のごとくなれ
目をみてまるきもまるく其あや
胸中に此石を入てあれば是より
鳳凰石（ホウワウ） 全体其形羽毛し
まるく白紅黄およびヒ
八紫などの色とりどりに光彩

その所にありて色に皆一色とあり
そのまはりて其あるがゆゑに
来しより論じて西方にて詳
イニス 蛮人の手の鐙に珠を入れ
瑕くなるひしきそのものへ含
みて造る其石いかなるべしに
用ひ指南の環の総とせしものあ
あかりに此事はふとしか瑕ぐ
わく緒下にて用ひし 新たなるを
鍛えとこれかなき其家のみなるひ
指をもって明らかにしてのひかりて
なるべしイニスの名も不思議なるに
あり一説に蛮人の名を石に付る
ことよけなりなり

牙玉（キバ） いとく大なる鯨を一つとり
ジラといふ其牙を緒下にて作
るなり生蒸とて深く彫刻珠
を作るを外に紐を彫りさんご
じのとてくつるまで海豚
魚の牙ともいへ
斑玉（マダラ） 瑪瑙の斑文あるをいふ
それが國なるものなり
はじめは蛮人の玉蒲より出る
ところ一家にて其石並ひに多き
鬼餡餅（オテアンモチ） 其白く円くして
して其色は図なり
白なり
如ものゝことをいへ

ヅヨシ石 内白瑪瑙のごとく [illegible]

香玉(ニホヒダマ) 薬種を練合せて [illegible] 焼 [illegible] 乃 [illegible]

菩提樹(ボダイジユ) 天竺より [illegible] 樹の [illegible]

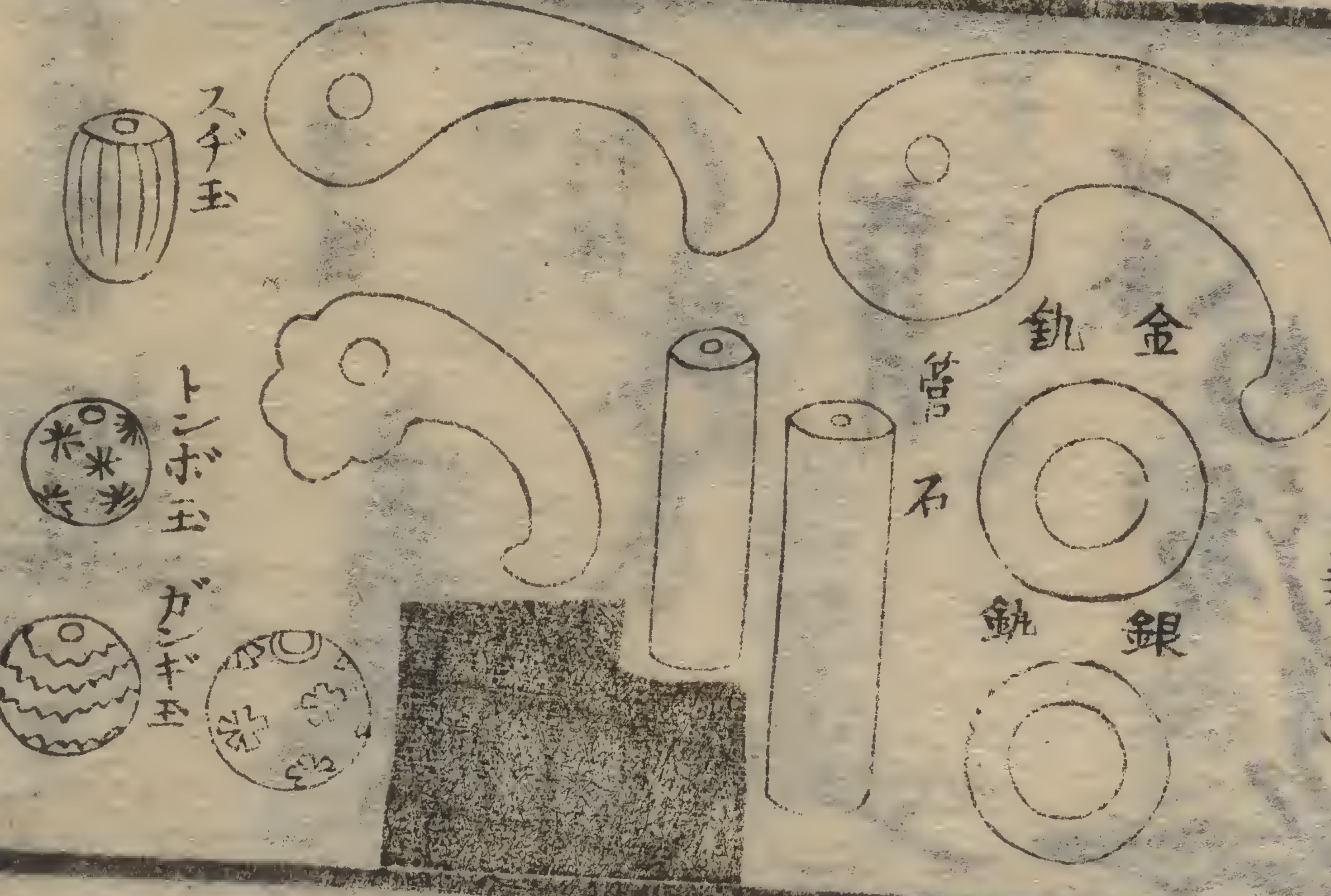
唐ツブ 即ちぼだい樹の実なり [illegible]
和産のものも [illegible] 人あり [illegible] ツブを緒 [illegible] 和の [illegible] 花の [illegible] 和のツブより [illegible] の樹の実なり

桃核(モモノサネ) [illegible] 猿などを刻く [illegible] 根付師の作なり

和瑪瑙石 越後八代 [illegible]

曲玉(マガタマ) 日本書紀云右三神呈羽明玉此神奉迎而進以瑞八坂瓊之曲玉又曰賜八坂瓊曲玉及八咫鏡草薙劔三種宝物 [illegible] 曲玉の [illegible] 種々

の故事国書に多 [illegible] 神家の秘書に日 [illegible] 曲 [illegible] 玉 [illegible] を参考して曲玉の [illegible] 浄の [illegible]
都一百品 管石類五十品



佩垂之部終

茶人花押續襍

武野紹鴎

仝 宗瓦

千利休

千少庵

田中宗順

田村宗珠 珠光男

木村屋宗悟

堺北之坊良佐

仝 常住坊

仝 本住坊

今井宗薫
宗久ノ男片桐主膳正舅ナリ
古渓和尚ニ参学ス

山上宗二

山科宗甫

万代屋宗メ

有馬侯藩中宗安外孫ナリ
後宗貫ト改ム

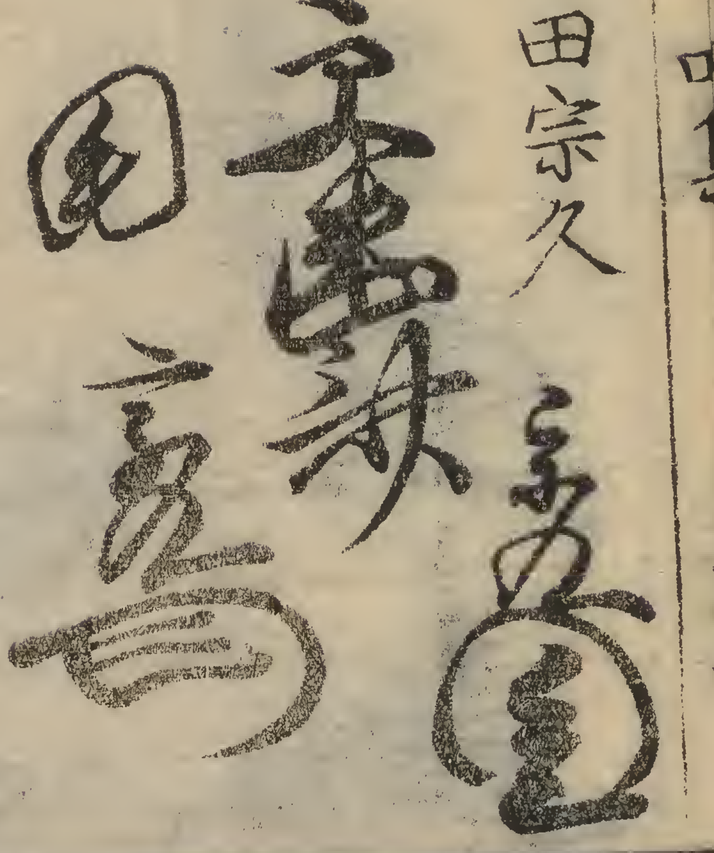
下田屋宗栅

本阿弥光甫

瀬田掃部

針屋宗春

津田宗久

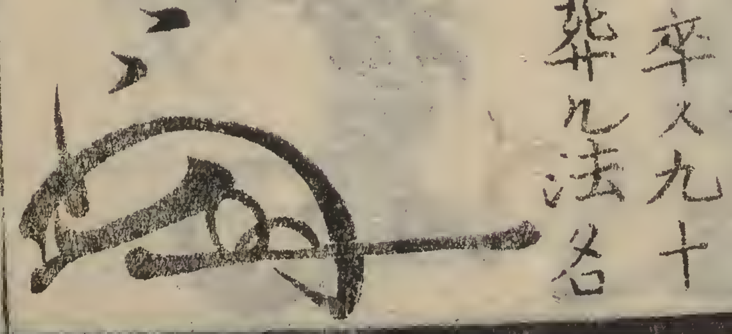


一尾伊織

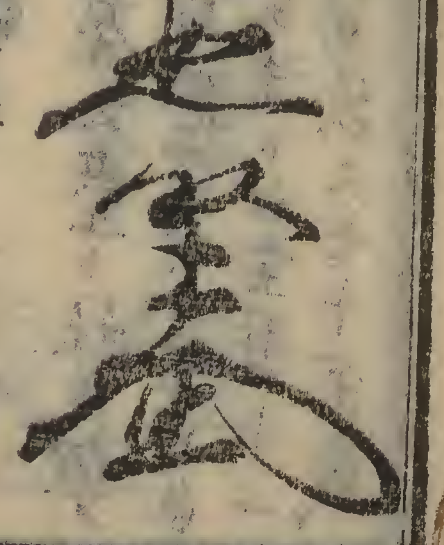


一尾淡路守通春ニ男茶道ヲ細川忠興侯ニ学ブ名ハ通高徹斎又一菴等ノ号アリ千二百石ヲ領ス一尾ノ一流ヲ興スト云文禄二年三月十三日卒ス九十一歳駒込高林寺ニ葬ル法名宗碩

灰屋紹益

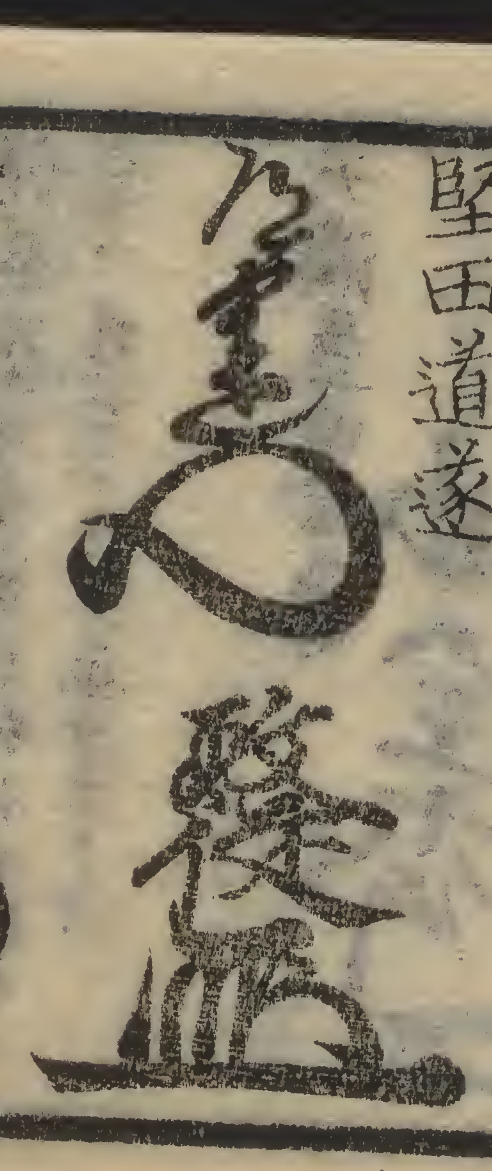


藤村恕堅



庸軒ノ男源之丞ト称ス茶ヲ父庸軒ニ学フ

堅田道遂

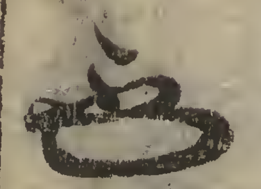


清水栟溪



佐々木道珠ニ学フ讃州丸亀侯ニ仕フ江戸ニ住ス敗素菴ト号ス天明四年四月没ス

大野道可



比喜多松斎

堅田祐菴ニ学ブ戈仙ト号シ又
不宣菴ト号ス

太良菴良斎

傳馬屋曲全斎千村伯就翁ニ
学フ尾州ノ人又画ヲヨクス

天満屋曲全齋

尾州ノ人天満屋九兵エト称ス初メ
原叟ニ学フ后怒心斎ニ学ビ自
流ヲ立テ曲全流ト云宝暦十一
年七月十四日没ス七十余歳

二階堂桝菴

六隣又圓窓菴寿ノ号アリ尾
州名古屋又六ト云者ノ隣ニ住ス
ルヲ以テ六隣ト号ス

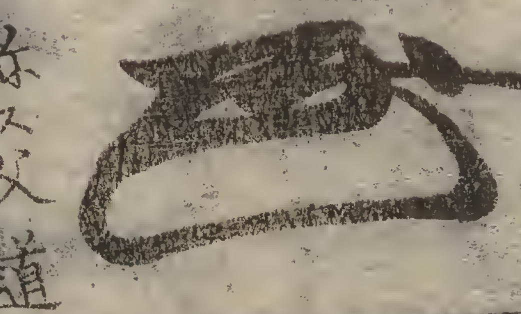
矢野仙奇

織田道八

織田有樂ニ男主斗頭頼長初
左エ門ト称ス後條阿弥陀佛ト号
ス退隠シテ洛東ニ住ス元和六
年九月廿日卒ス東山長寿
院ニ葬ル

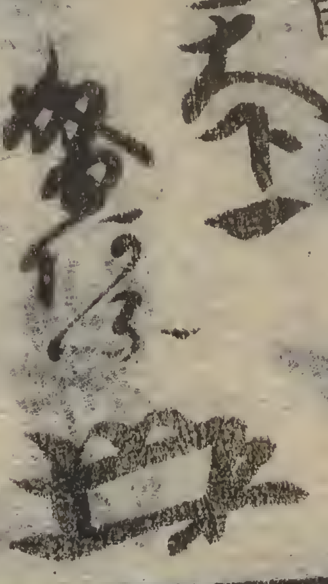
織田長好

道八ノ男初メ三五郎ト称ス父道八ニ学フ慶安四年五月廿四日没



盛阿弥 塗師

紹甫ト号ス宗旦ニ学ブ



宗哲 塗師

宗旦時代八兵エト称ス漆翁又方寸菴勇山ト号ス又好ンデ誹諧ヲヨクス

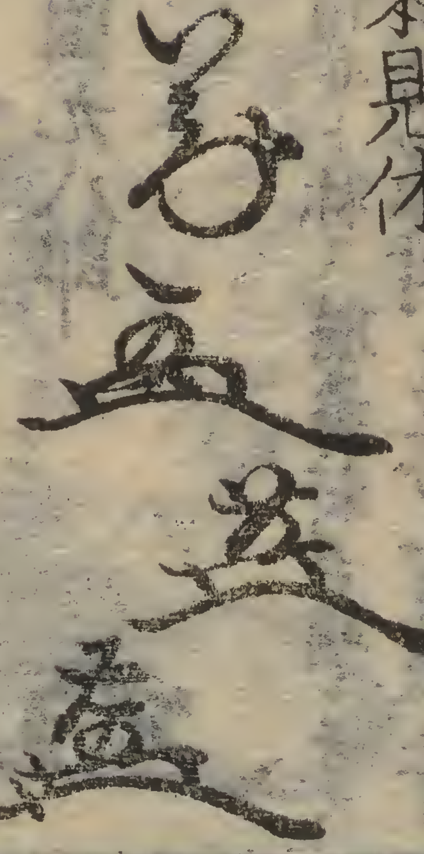


春溪 塗師



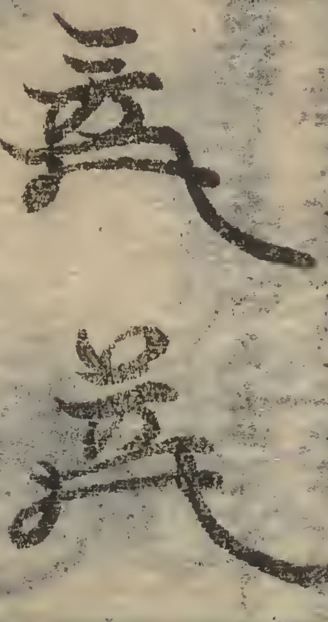
杢本見休

織田貞置侯ニ学ブ抹茶軒抹兼ト号ス江戸ノ人正徳五年三月没ス



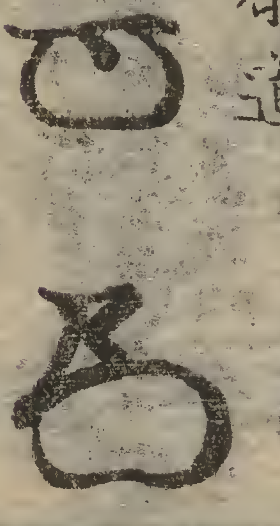
仝二代目

抹兼ノ男父ニ学ブ芋ノ泉ト号ス

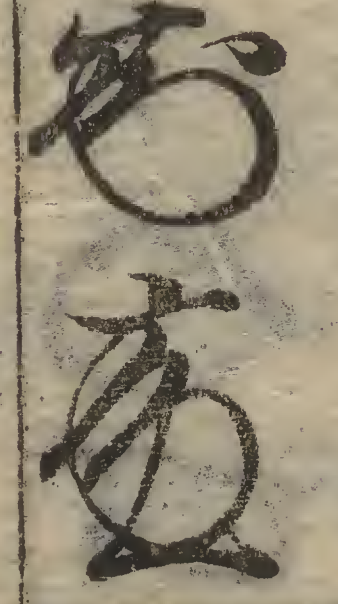


尾陽公御茶道

山本道傳

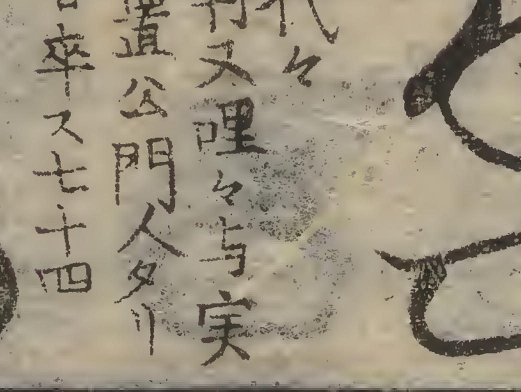


仝二代目



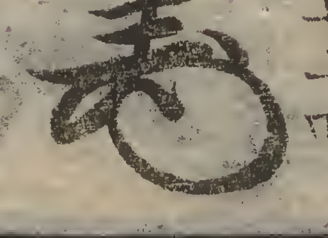
齊藤長八郎

藤懸壽木ニ学フ代々
御籏本タリ聽雨軒又哩々与号実
名聰摸壽木ハ貞置公門人タリ
明和三年十一月四日卒ス七十四



梶與九郎

梶日斎聽霜軒ト号ス又直下亭
鉄楨老公翁ト称ス実名正峯代々
御籏本タリ茶ヲ聽雨軒ニ学ブ

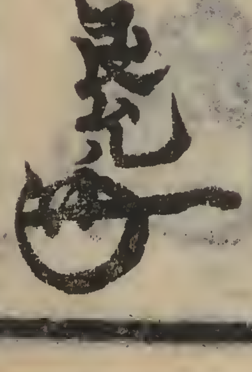


片岡九八郎

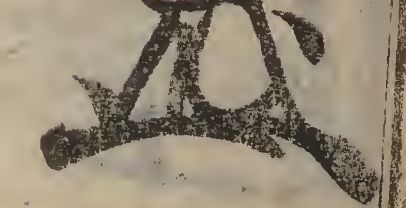
初清介ト称ス聽壽軒古明ト号ス
茶ヲ聽霜軒ニ学ブ寛政年
間ノ人



三谷宗鎮



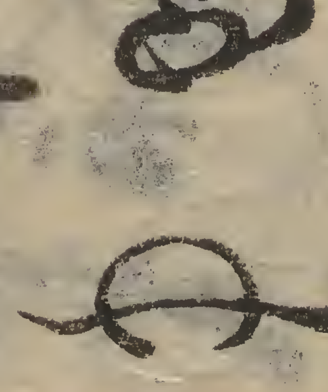
原叟宗佐



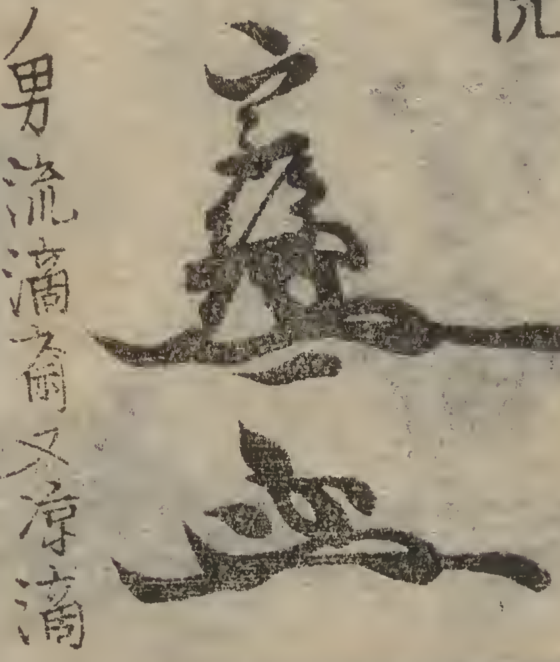
此老斎宗堅



久田宗全

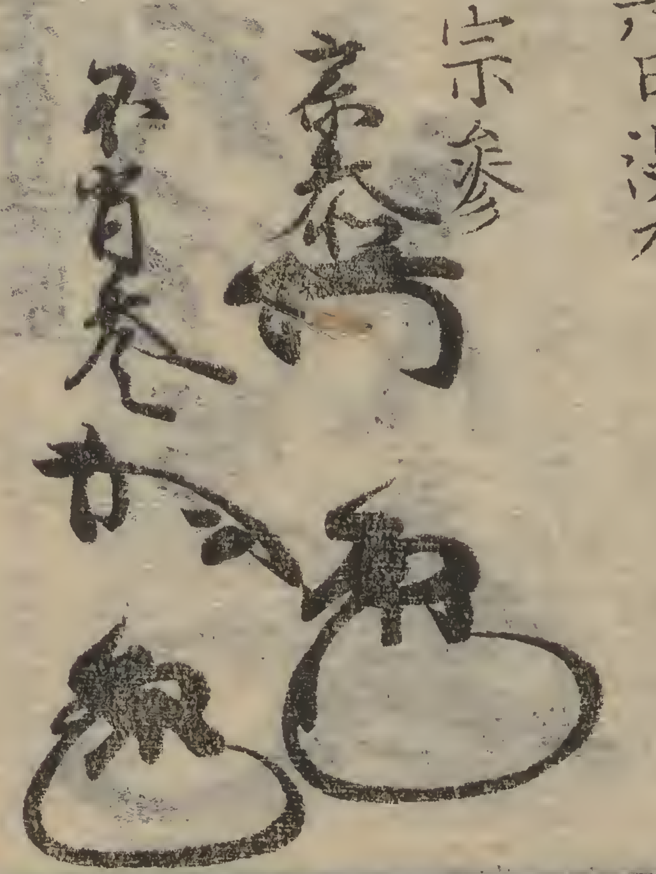


仝　宗悦

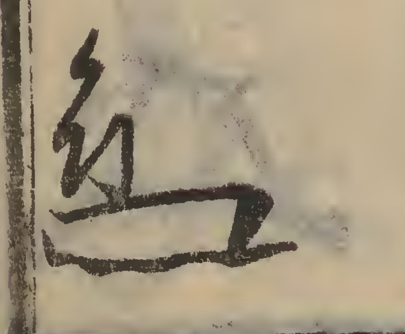


久田宗也ノ男流滴斎又淳滴
紹慶ト号ス明和五年四月
廿六日没ス

仝　宗参



漸至菴　観山

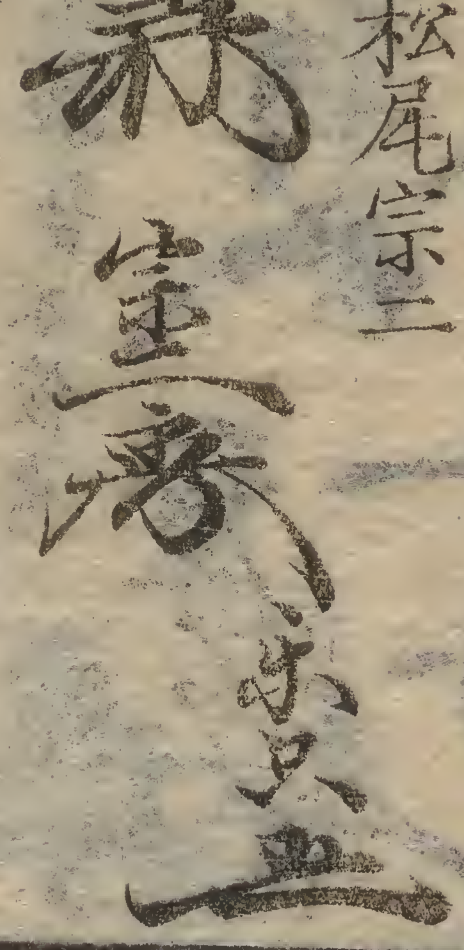


速水宗達

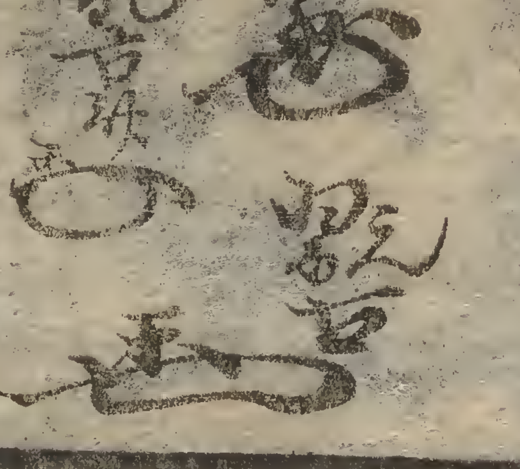


京師ノ人一燈宗室ノ弟子寛政
元酉年
院御所エ御茶奉ルニヨリテ養
壽院ノ号ヲ賜ハル字希棣又
知道扶拯翁ト号ス儒ヲ伊藤氏
ニ学ブ号ハ芦菴ノ門人也又日本茶
道博士ノ称ヲ賜フト云

松尾宗二



仝　宗五



松尾宗俊 不管斎

仝宗吾 不俊斎

安田是誰

京師ノ人初對馬ト称ス禪ヲ好ミ
賣茶翁ニ參ス翁寂後天竜寺
桂州和尚ニ參ス学ス又窮樂淡
々ト友トシヨシ

平尾數也

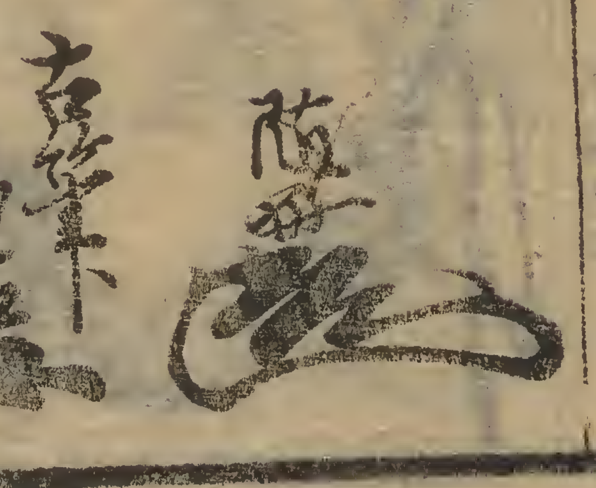
仝二代目

箇中菴使山

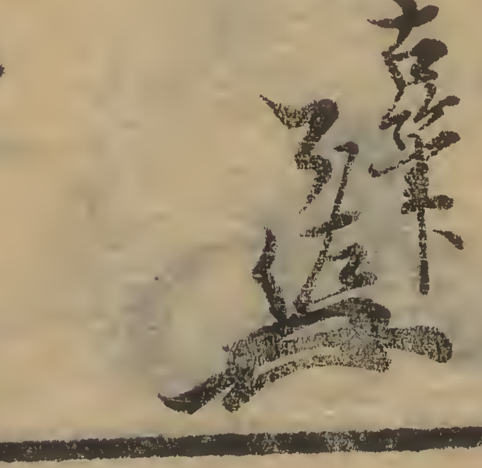
岡本玄治

因杲居士

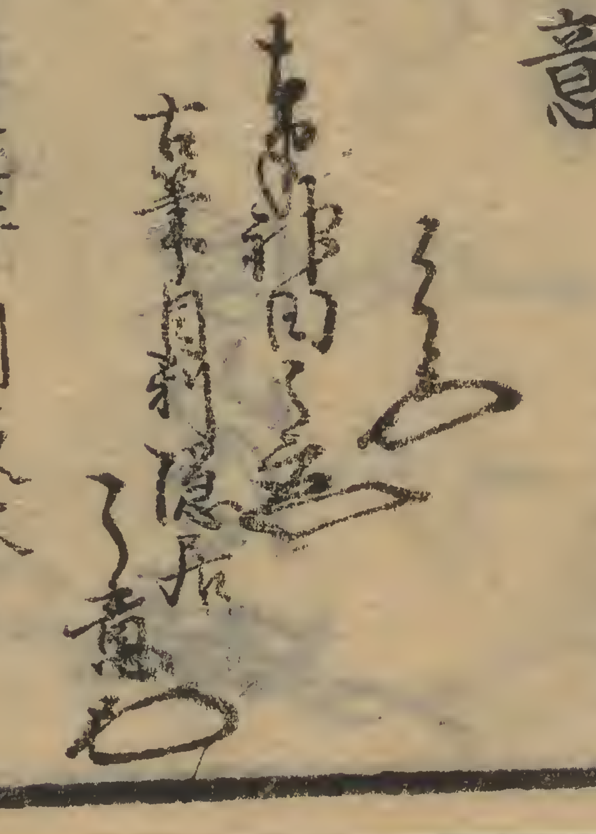
畠山牛菴



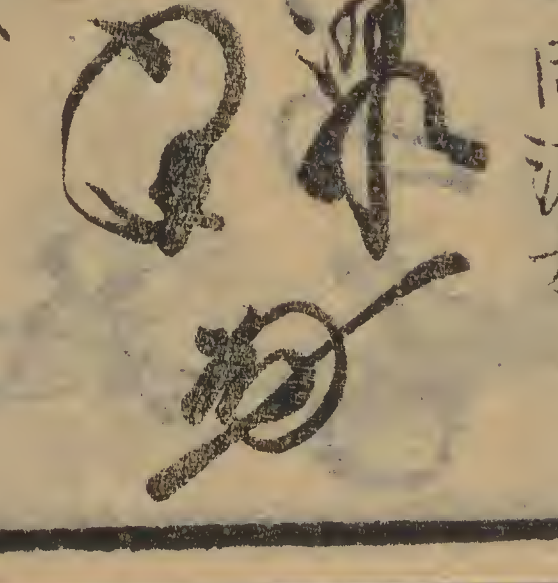
古筆了佐



仝了意



大倉是誰 同汲水



續花押終

○古筆御手鑑目録
并價附

一古筆御手鑑押様乃次第ハ古筆名葉集ニ悉く録するが故ニ此ニ只其後附を紀すなり

一行乃集の切什ニ敵切文ハ併継のよくれを縁なきれともつるも悉く名葉集ニ載するを以て略ス此ニ出する所乃價録ハ実永にの代なるもの八紙の内ニ善悪あハ不出来あ代ニよりなるところこなることなり

○古筆切代附

金三ア 聖武天皇
金三ア 聖徳太子
金一両 後深艸院
金一両 伏見院
金三ア 後二條院
金一両 後醍醐帝
金二両 月輪兼実公
金三ア 光明峰寺道家公
金一ア 一條禅閤兼良公
金二両 久我殿通具
金二両 大炊御門殿冬忠
御堂関白道長公
金三ア 日野殿俊光

金三ア 光明皇后
金一両 後鳥羽院
金二両 亀山院
金一両 後伏見院
金二両 花園院
金一両 後圓融院
金五朱 後京極良経公
金二ア 二條殿持通
銀五両 勝定院殿義持
金二両 同 通親
金一両 今出川殿公顕
法性寺関白忠通公
金三ア 同 資廣

銀五両 万里小路殿冬房
金二ア 閑院殿実継
金三両 五条三位俊成卿
金三ア 冷泉殿為相
同 為家
金五両 二條家慶融
同 為明
金一両 同 為藤
金二両 四條殿大納言隆
金一両 藤原基俊
金十両 参議佐理卿
金三両 飛鳥井殿雅経
銀五両 高辻殿長雅
金二両 油小路殿隆蔭

金二両 閑院三条殿実朝
金三両 法性寺左京家後忠
金一枚 京極黄門定家卿
金一ア 同 為秀
金一両 二條家為氏
金三両 同 為世
金一ア 銀三両 同為重 為右
金一両 正三位家隆
金一両 小野道風朝臣
金十両 中納言行成卿
源俊頼朝臣
銀五両 同一位殿
紀 貫之
金二両 海渡山光経

金三ア 世尊寺殿伊経　金二両 同 行能
金一両 同 経朝　金一両 同 定成
金一両 同 行尹　金一両 同 行忠
同 伊房　同 伊行
金二ア 清水谷殿実秋　銀五両 小倉殿実名
金二ア 橋本殿公夏　金一両 平松殿資高
金二ア 六條殿有忠　金二両 鎌倉将軍宗尊
金一両 四辻宮善成　金二両 勘解由路殿尊詮
金一両 卜部寂恵　金一両 春日社家祐茂
金三ア 住吉津守国冬　金二ア 同 国夏
金一両 安嘉門院阿佛　金二ア 真淵
金五両 寂然 頼業　金一ア 魚養
金二両 寂蓮法師　金二ア 慈恵大師
弘法大師　金二ア 慈覚大師

金一両 傳教大師　智證大師
金二両 慈鎮和尚　中将姫
銀五枚 親鸞上人　蓮如上人
金一枚五両 日蓮上人　日親上人
〃一両 青蓮院尊道親王　金一両 青蓮殿慈道
〃三両 仁和寺覚親王　〃三両 同 弘融親王
〃三両 実相院殿増運　〃二ア 現覚院殿禎献
〃二両 醍醐御門跡成賢　〃一ア 石山寺座主果守
〃一両 大乗院殿慈信　〃二ア 安住寺殿経覚
〃二ア 栂尾明恵上人　〃三両 高雄文覚上人
〃二ア 解脱上人　〃五両 後實僧都
〃二ア 素眼法師　〃一ア 華空
〃三両 大徳寺一休　〃二両 同 黒滑
〃二枚 同 実傳　〃一枚五両 同 古岳

金一枚 同 大林　金三ア 同 江隠
ノ五両 同 春屋　ノ二ア 同 一凍
ノ五両 同 玉室　ノ三ア 同 宗朝
ノ三ア 同 心溪　ノ三ア 同 仙岳
ノ二ア 妙心寺鉄山　ノ二ア 東福寺虎関
ノ三ア 建仁寺古澗　ノ三両 景愛尼如大
ノ一両三ア 夢窓国師　恵心僧都
ノ一両 中正蔵主　ノ二両 玄恵法印
ノ三ア 同坊岩石屛　ノ三両 源三位頼政
ノ二ア 細川持之　ノ二ア 武田元信
ノ三ア 三浦道寸　ノ三ア 大夫坊覚明
ノ二ア 蜷川親元　ノ一ア 東野州常縁
ノ三ア 連歌師宗砌　ノ一ア 日比正廣
ノ一ア 堀月樵　ノ二両 医師道三

○短冊　無名モアリ大畧各ヲ
コヽニシルス

金三両 後宇多院　金一枚 ノ五両 後光厳院
ノ五両 後小松院　称光院
ノ二両 後花園院　ノ二ア 同 勾當内侍
ノ一両 後土御門院　ノ二ア 同 勾當内侍
ノ三両 後柏原院　ノ三両 後奈良院
ノ一両 正親町院　ノ三両 陽光院
ノ二ア 後陽成院　ノ三両 後水尾院
ノ二両 後光明院御幼筆
ノ五両 近衛殿政家　ノ二両 同 尚道
ノ一両 同 種家　ノ三ア 同 龍山
銀一枚 同 杈　ノ一両 同 信尋
銀二枚 鷹司殿信房　ノ一枚 同 信尚
金一両二ア 九條殿植通　ノ一両 同 通房

金二枚 二條殿持基
ノ十両 同 晴良
ノ十両 一条殿教房
ノ三両 足利尊氏
ノ五両 同 義政
ノ五両 同 義村
ノ三両 同 義澄
ノ五両 相 阿
ノ一枚 花山院殿師賢
ノ三ア 久我殿季造
ノ三ア 西園寺殿公益
ノ三ア 徳大寺殿実淳
ノ一両 大炊御門殿信量
ノ二ア ノ 今出川殿晴季

金二両 同 尹房
ノ三両 同 昭実
ノ五両 同 冬良
ノ三両 同 名入
ノ三両 同 義照
ノ一両 同 義躬
ノ三両 徳 阿
銀一枚 同 家雅
銀一枚 同 昊家
ノ三両 同 実晴
ノ一両 同 公済
ノ三ア 同 経名
ノ一ア 同 宣季

ノ一枚 轉法輪殿実量
ノ二ア 同 実香
ノ三両 四條殿隆永
銀一枚 山科殿言国
ノ三ア 日野殿輝資
ノ二ア 廣橋殿守光
ノ一枚五両 烏丸殿資任
ノ五両 同 光廣
ノ三枚 柳原殿量光
ノ三ア 甘露寺殿親長
ノ二ア 同 蓮空
ノ二ア ノ 葉室殿頼宣
ノ一枚 万里小路殿賢房
ノ一枚 勧修寺殿教秀

ノ二両 同 禅空 公教御法名
ノ五両 同 三條家実任
ノ三両 同 隆重
銀五両 同 言綱
銀五両 同 資勝
ノ三ア 同 兼秀
ノ一両 同 光宣
銀五両 同 光賢
ノ一両 同 資宣
ノ一ア 同 元長
ノ三両 同 経遠
ノ一ア 同 頼業
ノ三ア 同 惟房
ノ一両三ア 同 政顕

同 金二ア 尚顕
中御門殿 ノ二両 宣綱
高倉殿 ノ五両 永熙
園池三条殿 ノ二両二ア 実望
西三條殿 ノ三ア 実隆
同 ノ一両 実世
正親町殿 ノ三ア 公兼
同 ノ三ア 公叙
同 ノ二両 公澄 慶流
四辻殿 ノ三ア 公音
同 ノ二ア 季継
滋野井殿 ノ三ア 教国
水無瀬殿 銀一枚 兼成
松木殿 ノ三両 宗継

同 ノ三両 晴右
同 ノ三ア 宣胤
同 ノ三ア 常眼 老名
同 ノ三ア 公兄
同 ノ三ア 公條
同 ノ一両 公国
同 ノ三ア 実胤
同 ノ一両 実彦
同 ノ二ア 公高
同 ノ三ア 季遠
同 ノ一枚 季春 慶流
川鰭殿 ノ一枚 実治
同 銀一枚 兼俊
同 ノ一両 宗藤

持明院殿 ノ一両 基春
同 ノ三ア 基孝
冷泉殿 ノ一枚 為家
同 ノ三ア 為廣
同中山殿 ノ二ア 為親
同 ノ五両 共基
下冷泉殿 ノ一枚 持和
同 ノ一枚 為孝
同一條家 ノ一枚 為忠
藤谷殿 銀五両 為貫
中山殿 ノ三ア 宣親
飛鳥井殿 ノ一枚 宋雅
同 ノ二ア 栄雅
同 ノ二ア 雅綱

同 ノ三ア 基規
同 銀一両 基定
同 ノ三両 為富
同 ノ一両 為知
同 ノ三ア 為頼
同 ノ一両 明融
同 ノ一枚 政為
同 ノ二ア 為尚
同 ノ一枚 為親
中山殿 金五両 宣親
同 ノ三ア 康親
同 ノ五両 雅世
同 ノ二ア 雅俊
同 ノ二ア 雅春

金三ア 同 雅敦
ノ三ア 同 雅庸
ノ二ア 同 雅昭
ノ五両 同 雅孫 慶流
ノ二両 同 頼孝
ノ二ア 船橋殿秀賢
ノ三ア 庭田殿雅行
ノ三ア 同 重視
ノ一枚 五辻殿富仲
ノ一枚 中院殿通秀
ノ一枚 北畠殿晴長
ノ三ア 白川殿忠富
ノ五両 西洞院殿時顕
ノ三ア 薄殿以量

金三ア 同 雅賢
ノ二ア 同 雅宣
ノ二ア 同 雅章
ノ三ア 同 雅康
ノ三ア 同 季世
ノ二ア 同 秀相
ノ三ア 同 重経
ノ三ア 同 重保
ノ三ア 同 諸仲
銀二両 同 通村
ノ二ア 同 親顕
ノ三ア 同 雅業
ノ三ア 同 時慶
ノ三ア 同 以緒

金二両 高辻殿章長
金三ア 五条殿為学
ノ三ア 東坊城殿和長
銀一枚 高倉殿範音
ノ二ア 鷲尾殿隆康
ノ三ア 西大路殿秀成
ノ一枚五両 油小路殿隆継
金三ア 清閑寺殿共房
ノ三両 海住山殿高清
ノ三ア 姉小路殿基綱
ノ五両 甘露寺殿行季
ノ二ア 阿野殿実顕
ノ二両 清水谷殿公松
ノ二ア 橋本殿季村

銀二両 同 持従
ノ二ア 同 為名
ノ二両 同 盛長
ノ三ア 同 範久
ノ三ア 同 隆尚
ノ三ア 高藪殿嗣登
銀二両 同 隆基
ノ二ア 同 保房
ノ三ア 田向殿重治
ノ三ア 同 済継
ノ二ア 富小路殿秀直
ノ二ア 同 公福
ノ三ア 小倉殿季種
銀一両 平松殿時庸

金五十五両 園殿基有　同 金三十両 基富
銀五十両 竹内殿惟春　同 五十両 孝治
金三十ア 綾小路殿俊量　同ノ三ア 資敷
ノ三ア 六條殿有庸　同ノア 有純
ノ二ア 八條殿智仁　同ノ三ア 智忠
ノ三ア 高松殿季祐　同ノ三ア 好仁
ノ三ア 唐橋殿在数　ノ一ア 七条殿隆修
ノ一ア 堀川殿康純　銀二両 花園殿実情
銀五十両 久世殿通式　ノ一ア 中川殿貞秀
ノ一ア 樋口殿信孝　同ノア 信康
ノ一ア 千種殿有能　ノ一ア 裏辻殿季福
ノ一ア 岩倉殿具起　ノ一ア 堀小路殿通親
ノ一ア 倉橋殿泰吉　ノ一ア 野宮殿定通
ノ一ア 藤江殿雅良　ノ二ア 吉田殿兼見

ノ一ア 土御門殿泰広　同ノア 泰重
ノ一ア 壬生官務孝亮　ノ一ア 荒木宣豊
ノ一ア 佐兼野資敦　ノ一ア 山本宮勝忠
ノ二両 鳥居小路経厚　同ノ二ア 経乗
ノ五両 藤寿丸 丹波 日住　ノ二ア 迎藤長治 近衛家
ノ二ア 北小路後亘　ノ三ア 官務増長 二条家
ノ三両 平田墨梅　ノ二両 速水親祐
ノ五両 伏見宮貞成　同 二両 貞常
同ノ三ア 邦高　同ノ三ア 貞敦
同ノ二ア 邦輔　同ノア 貞康
同 邦房　同 貞清
ノ三ア 御室御所守理　ノ三両 真光院殿尊海
ノ三ア 同院家良俊　ノ三ア 真乗院殿真淳
ノ一両二ア 同本寺宮静覚

金百貫 青蓮院宮尊圓
ノ三両 同 尊應
ノ二両二ア 同 尊鎮
ノ一ア 聖護院宮道増 名晃
ノ三ア 梶井宮堯胤
ノ一ア 同 蟠庵
ノ二ア 妙法院宮覚胤
ノ二両 勧修寺宮常信
ノ二ア 照高院宮道澄
ノ三両 勝仙院殿澄興
ノ一両 大覚寺宮義俊
銀一両 実相院宮義尊
金一ア 知恩院宮良純
銀一枚 下川原殿道什

金一両 同 無名
ノ二両二ア 同 尊傳
ノ一両 同 尊朝
銀二両 同 道晃
金三両 同 彦胤
銀五両 同 寂胤
銀五両 同 常胤
ノ二両 随心院御門跡厳宝
ノ二ア 同 道勝
ノ一ア 若王子殿澄存
ノ二両 同 性舜
ノ一ア 大清院殿孝我
ノ一ア 天海大僧正
ノ二ア 同 道永

ノ二両 多々良満繁
ノ五両 西川宰相房任
ノ二両 蒲生知郷
ノ一両 佐々木勝秀
ノ三両 蜷川親世
ノ三両 同 親孝
ノ二両 同 貞高
銀五両 仁保胤秀
金一両 大内義隆
銀五両 同 厳智
ノ二ア 同 宗可
銀五両 陶安房守隆秋
銀五両 相良正継
銀五両 内藤隆和

金一枚五両 同 政弘
ノ一ア 斉藤宗甫
ノ三両 同 季孝
ノ三両 朝倉義賢
ノ二枚 同 親當道 溢智
ノ二ア 同 貞通
ノ二ア 同 貞利
銀五両 玖伯耆守隆泰
銀五両 同 春誉
銀五両 同 敦定
銀五両 長門守興国
銀五両 同 隆房
銀五両 青景隆春
ノ一両 阿河貞牧

金一枚五両 杉原宗伊　金一枚 細見宗高
ノ二ア 備中兵庫国　ノ二ア 岩山民部少輔
銀三両 秋庭元頼　銀五両 熊谷直盛
銀五両 雲州賢清　銀三両 本江金剛丞康
銀三両 若原秀俊　金一両 能勢豊永
ノ三両 上野持頼　ノ一両 木戸実範
ノ二両 大江元高　ノ三ア 田原頼郷
ノ三ア 上杉元永　ノ二両 大国実頼
ノ三ア 池田帯力 又名 ノ三ア 岩山道堅
ノ二両 鈴木忠親　ノ二ア 半井明宗
ノ二両 大和国住遠忠　ノ三両 惟宗光吉
一五両 東野州常縁　ノ二両 同 景山
ノ三両 飯尾常房　ノ二両 豊統後号純秋
ノ一ア 多賀出雲守　ノ二ア 松永弾正久秀

金三両 同 玄清　ノ一ア 同 堯伯
銀一枚 徹書記正徹　金三両 門弟正般
金一両 同 桂久　能阿弥　相阿弥
ノ三両 牡丹花 以下門人堺衆上足
ノ三両 宗訊　一両 宗周　ノ一ア 等恵　ノ二両 宗全
ノ五両 宗椿　ノ二両 宗柳　ノ二両 主牧　ノ三ア 道安
ノ三ア 寿印　ノ三ア 玄倫　ノ三ア 玄俊　ノ三ア 支理
ノ一ア 阿　ノ三ア 宗節　ノ三ア 慶祐
ノ三両 連歌師宗牧　ノ二両 宗養　ノ二両 周桂
ノ一両 紹巴　ノ二両 玄仍　ノ一ア 玄仲　銀三両 玄陳
ノ三両 玄的　ノ二両 紹尚　ノ二両 玄俊　ノ二両 心前
ノ二ア 兼興　ノ三ア 昌叱　ノ三ア 昌琢　ノ二ア 昌程
銀三両 昌俔　銀二両 昌通　金五両 寿慶　ノ三ア 慶純
金一枚五両 山崎宗鑑　紫屋軒宗長

金三両 豊臣秀吉
銀一両 宇喜多秀家
金五両 今川氏親
ノ三ア 同 氏真 宗誾
ノ壱両 藤井嗣慶
ノ一枚 木幡雅冬
ノ五両 山名常凞
ノ三両 細川道永
ノ三両 同 高国
ノ一両 同 尹隆
ノ三ア 同 元重
ノ三両 細川[illegible]孝
ノ一ア 同 三存[illegible]名
ノ一枚五両 赤松満祐

金三ア 同 秀頼
ノ一ア 金吾中納言
ノ三ア 同 覚信
銀一両 同 刑部少輔
金一枚 法性寺親世
ノ一両 南部国行
ノ五両 細川満之 道観
ノ三両 同 政元
ノ三両 同 政国
ノ三ア 同 元久
ノ一両 武田勝頼
ノ一両三ア 同 玄旨書
ノ一ア 嶋津家久
ノ五両 同 満祐賛

金三両 竹内御門跡良厳
ノ三ア 同 覚恕
金一両 圓満院宮仁恪
ノ三両 一乗院宮良慶
ノ一ア 大乗院御門跡良慶
ノ一両 東大寺実泉
ノ一両 松林院実性
ノ三ア 祐範
ノ三ア 安住寺啓良済
ノ二両 定法寺公助
ノ三両 祐夏 加茂社家
銀一枚 大徳寺決菴
金一ア 相国寺等貴
銀二両 東福寺光隣

金一両 同 慈運
銀五両 同 覚胤
銀一両 同 常尊
金一両 同 尊政
ノ一ア 同 尋圓
ノ三ア 興福寺淳尊
ノ一両 祐記 奈良若宮社人
ノ一両 三井寺長元
ノ一ア 積善院尭雅
ノ四両 四室殿公順
ノ一枚 同 祐守
ノ二両 天竜寺策彦
ノ三両 南禅寺大愚
銀二両 建仁寺東説

銀二両 東寺白清 名元
銀二両 新春坊重清
金一ア 拙誓願寺策傳
銀一枚 高野木食應其
金三両 不斷光院叅亂
銀五両 覚阿上人
銀二両 旋行上人化阿
金五両 兼好 元名
金五両 慶運
ノ三百貫 宗祇
ノ三両 宗梅 宗祇執筆
ノ三両 堯孝 和哥所法印
ノ五両 常徳院圓雅
ノ二ア 同 堯知 元名

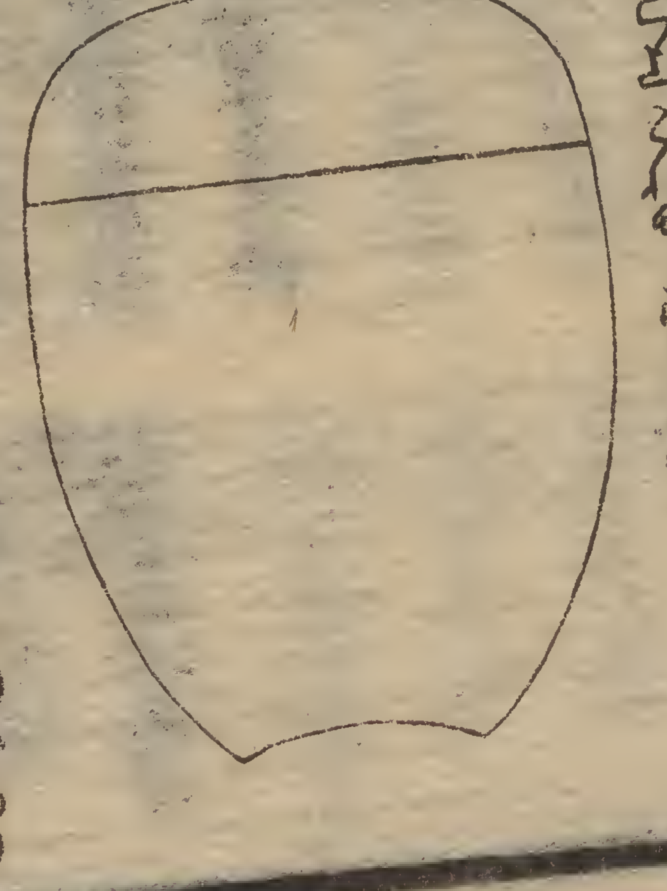
八幡孝清
金二両 滝本坊昭乗
ノ三ア 同 木食楚之仙
ノ二両 本満寺日紗
ノ二ア 北野慮勝院禪昌
ノ二両 有俊
ノ二ア 時宗其阿
ノ二両 静弁
ノ二両 頓阿 元名
三両 専順
ノ二両 兼載 元名
ノ二ア 兼与
銀一枚 同 堯憲
金一枚 同 伊成

金二両 本江光泰
ノ二両 林道春
ノ一枚 伊達政宗
ノ二両 毛利輝元
ノ二両 小堀宗甫
ノ二両 長庵 信長古筆
ノ二両 鳥羽宗慶
ノ三ア 本阿弥光悦
ノ二ア 慶偏院殿
古筆了佐

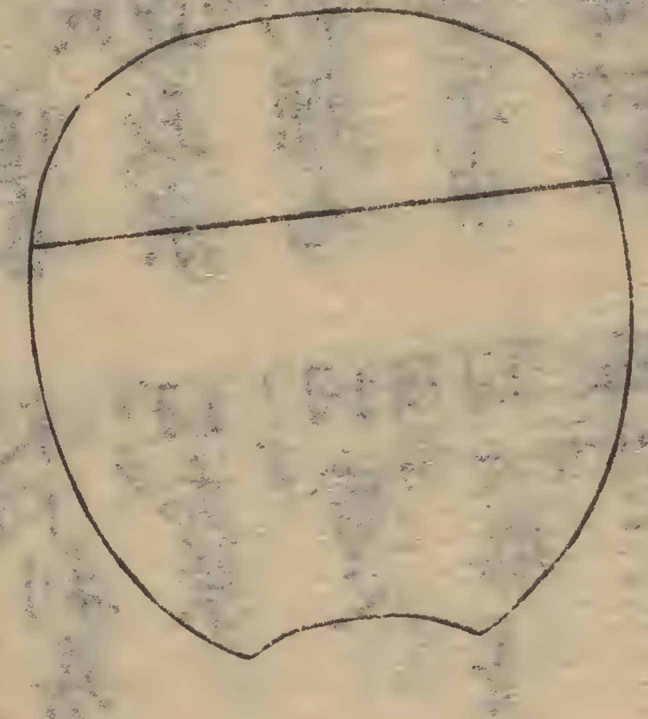
金一両 木下長嘯子
銀五枚 木下利房
ノ二ア 同 秀宗
ノ二ア 同 秀之
銀二両 同 大膳 元名
ノ二両 梅軒宗
銀二両 和久半左衛門 名元
ノ二ア 小野於通
銀二両 松倉彦宮内々

古筆價録終

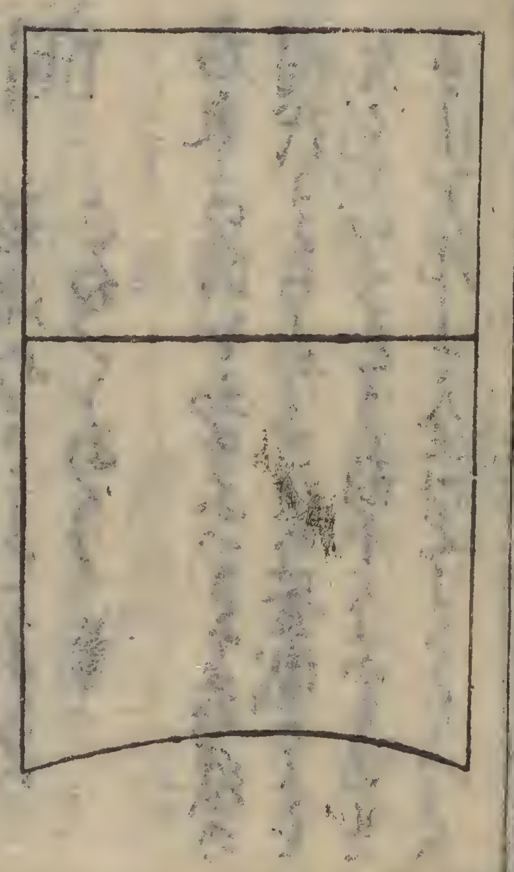
○棗　義政公信長公豊太閤時代の名物あり利休作ハ中次なりとも底ニ朱の判あり　これを賞す



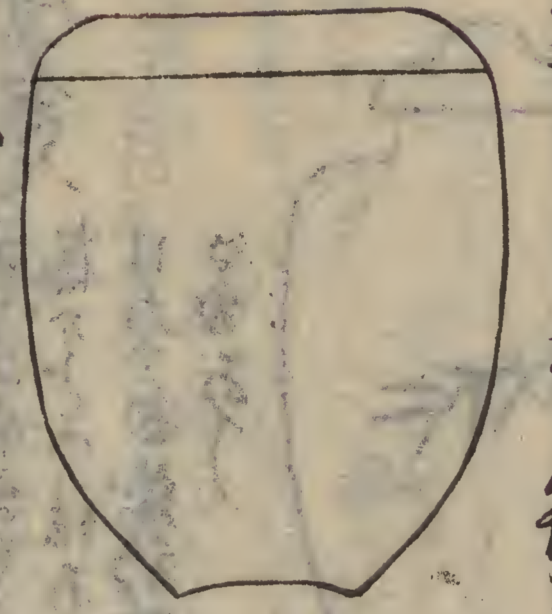
丸棗　根来その余諸家名物あり　いつまでも袋入なり　長緒短緒あり



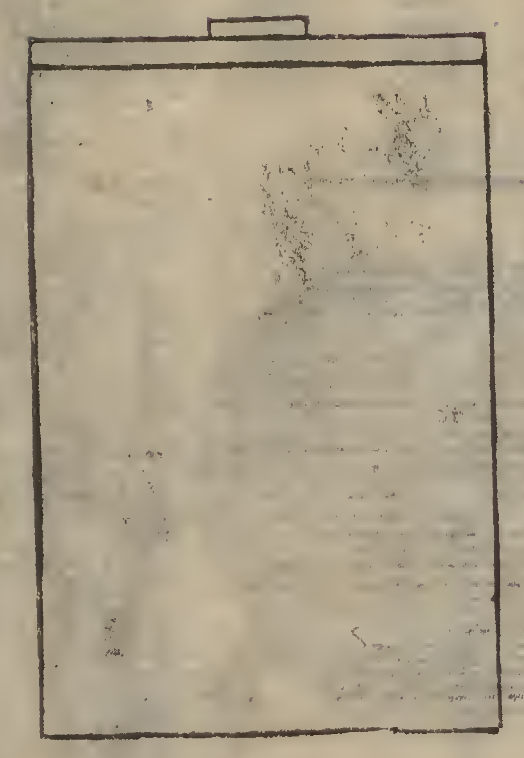
大中継　小中継　時代まき絵名物多く　多くハ二つ袋



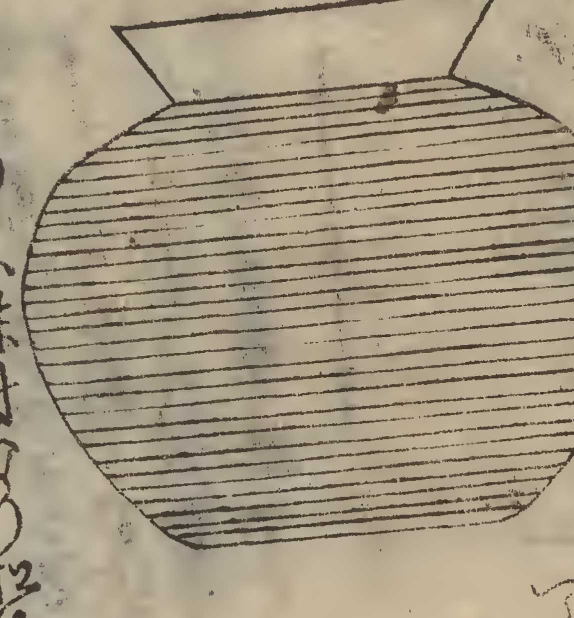
頭切　利休形とて多く黒ぬり　内めうり外朱花なり



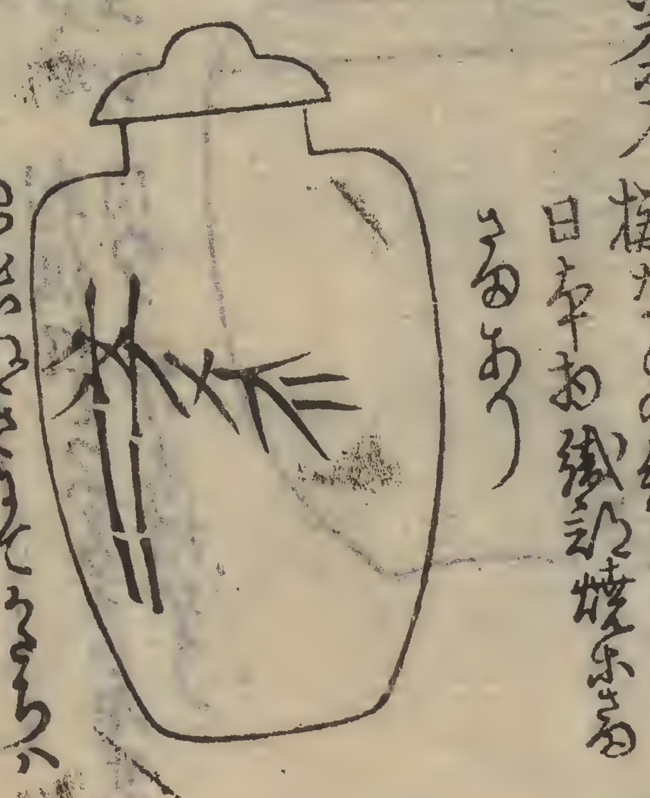
寸切　紹鴎形とてふたの手前ニ口まきあり又利休合紹寺寸切とてあり檜の曲物なり筒目ありてふた指なし



薬器　唐物宗達の手といふ蒔
なかだちに綺のなり又うつく
のごときの形に堆朱堆紅の
彫られしもあり



薄茶入　南京際より松竹
梅などの絵あり又まさ
日本にて織部焼其品
品あり



一閑　変に似やさるものもあり
さるもあり

右東山の図を出すにつきて蒔絵の
時代ならびにかくれ鑑識のことを
大かたしるす故にてふそのこと
はしと記して全なるやうはなしと云

○蒔絵物の時代

聖武時代　塗蒔絵唐物にかはり
たる物なくの絵にめづらしき事
ようようあらはしてよ上代物蒔絵といふ
後の名作より元禄頃までのものを
又此時代のものといふ後の名作の
元禄時代のものといふ新物時代
といふも此時代なるべし

東山時代　此時代のまき画にあり
義政公の頃東山殿の作あらしと
いへど此のち後世時代と云代
又此のち後世時代也古き時代

鎌倉彫　唐物に似たるもの内の物にて
日本物といふなり

越前彫　古く日本のものなり

金林寺　すこぶる上品なり又紋
作とも云　後醍醐天皇
吉野にて　勅作のもの
くつの根にて作られしもの

盛阿弥　中次なるひとなり又ある盛
のことあるものもあり

秀次　京なり中次あり
蒔絵よろしきもの

藤重　京にて東山時代より京の名物
中継にて東にて家ごと藤重遣
とあり

小田原彫　彫わるし　ぞうがんあかうききを大なし

堺大塗師　東山中次

堺久庵　又云ふトモいふ本阿弥子ま具入の名なあり

奈良塗　利休おこのみ春日盆とりふろ屋あり

五十嵐　東都まき名所もある　時代もの

根来物　寺合お座敷むき紙をなし　すりそん紙を塗つくし寺

紹鴎　中次こ　このみ　利休　中次あきふるさ　のこ相の蒔絵　めづらしく根来にならべ紙をつけず

織部　中次　○如庵○吉左○与三郎　棗

長府　古き時代京の名所絵師なり　本紀に蒔絵のことあり

若狭盆　本堅地内赤塗底にあし四つの　おもて大ぶりなる青貝をかざり縁　角入くかうきこの名あり　松木盆六寸八分四方まで角形に作る

茶家酔古四襍終

嘉永紀元戊申捻春

池内氏蔵版

書肆弘所

大坂　藤屋善七

河内屋喜兵衛

江戸　須原屋茂兵衛

同　伊八

摂津　篠田伊十郎

尾陽　永楽屋東四郎

加陽　松浦善助

京寺町通六角下ル

近江屋佐太郎　製本